

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	井上 英也		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>本学の建学の理念にあるホスピタリティは、人と人を結びつける重要な素養として、国際化、多様化が進む企業活動においても広く取り入れられています。本演習は、ホスピタリティ産業の先端であるホテルの研究を通じて、“感じる力”“考える力”“表現・行動する力”を養い、将来の観光産業のリーダーを育成することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。</p>							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域観光の核となる宿泊業の役割を理解し、個々のホテル、旅館について、ビジネス、顧客、社員の観点から評価ができる。				課題レポート	10%	
情報収集、分析力	常に新聞や雑誌に掲載される最新のホテル関連記事や情報を収集し、世界および我が国のホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。				授業への積極姿勢	30%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション	40%	
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において、自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、課題に対する新たなチャレンジに果敢に挑戦することができる。				授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢	10%	
多様性理解力	外国人旅行客が地域のホテル・旅館・観光全般に求めることを理解し、改善策を提言することができる。				プレゼンテーション	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。 ② 「課題レポート」は提出時期(30%) 内容の論理性・独自性(50%) 文章構成力・形式要件(20%) で評価する。 ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。 ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のグループワークのとりまとめなどをもとに評価する。 尚、評価のフィードバックは、授業内外で都度おこなう。</p>							
授業の概要							
<p>近隣ホテルの視察、研究を通じ、ホテル運営全般の理解を深める。また、福岡、沖縄など地域ごとに様々なカテゴリーのホテルを研究する。個人またはグループの研究は、プレゼンテーションを通じて他のメンバーと成果を共有しながら授業をすすめる。また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンスやイマキクを利用して確認する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：特になし / 参考書：演習時に提示する 指定図書：「真実の瞬間」ヤン・カールソン							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。 ②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。 ③「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「プライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。 ④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。 ⑤国際的な情勢に関心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション ホテル業の概要	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。 現在の日本と世界のホテル業界の動向を学ぶ。	(予習) シラバスを読んでおく
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	(予習) 本ゼミにおける個人の目標を考えておく
3	ホテル視察 I	ハウステンボス・佐世保周辺のフルサービス型ホテルを視察する。(ホテルアムステルダム予定)	(予習) ホテルアムステルダムについてウェブサイト調べておく
4	ホテル視察 I の振り返り 客室部門の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ホテルの客室部門に関する基礎を理解する。	(予習) 視察した内容をまとめておく
5	ホテル視察 II	ハウステンボス・佐世保周辺のフルサービス型ホテルを視察する。(ホテルオークラ JR ハウステンボス予定)	(予習) ホテルオークラ JR ハウステンボスについてウェブサイト調べておく
6	ホテル視察 II の振り返り レストラン部門の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ホテルのレストラン部門に関する基礎を理解する。	(予習) 視察した内容をまとめておく
7	ホテル視察 III	ハウステンボス・佐世保周辺のフルサービス型ホテルを視察する。(ホテルヨーロッパ予定)	(予習) ホテルヨーロッパについてウェブサイト調べておく
8	ホテル視察 III の振り返り 宴会・婚礼部門の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ホテルの宴会・婚礼部門に関する基礎を理解する。	(予習) 視察した内容をまとめておく
9	ホテル試泊 長崎県内のホテルを試泊	長崎県内のホテルに宿泊し、ホテル館内の視察を通じて、ホテルのインスペクションを行う。 (ANA クラウンプラザ長崎グラバーヒル予定)	(予習) ANA クラウンプラザ長崎グラバーヒルについてウェブサイト調べておく
10	ホテル試泊に関する プレゼンテーション	試泊によりインスペクションした結果について、グループごとに討議し、発表する。	(予習) 試泊した内容をまとめておく
11	ウェディング施設 視察	佐世保周辺のウェディング施設を視察する。 (ハーバーテラス SASEBO 迎賓館予定)	(予習) ハーバーテラス SASEBO 迎賓館についてウェブサイト調べておく
12	ウェディング施設視察の 振り返り 婚礼業界の理解	視察した内容を、グループごとに討議し、発表する。 ウェディング・ビジネスに関する基礎を理解する。	(予習) 視察した内容をまとめておく
13	博多地域 ホテル研究 シティ・ホテルの概要理解	博多周辺の手ホテルチェーン傘下のホテルに関し、ブランドごとの特徴を理解する。	(予習) 博多地域にある大手ホテルチェーンのホテルを調べておく
14	沖縄地域 ホテル研究 リゾートホテルの概要理解	沖縄にあるリゾートホテルの地域および各ホテルの特徴を理解する。	(予習) 沖縄にあるリゾートホテルを調べておく
15	専門演習 I A のまとめ	学んだことをグループごとにとりまとめ、発表する。	(予習) グループ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A(CF201)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
博物館等の見学を各自が行い、博物館を資料・展示・保存・研究・展覧会など様々な角度から概観し、博物館を幅広く学ぶとともに、卒業研究のテーマを考える力を身に付けることができる。 地域文化資源の野外調査を行い、その結果を発表することができる。							⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。				授業・調査への参加度		10%
情報収集、分析力	博物館の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。 書籍や論文を読み分析力を養うことができる。				事前・事後学習		30%
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。				調査における態度		50%
協働・課題解決力	博物館の調査方法を身に付け、プレゼンテーションができる。勉強会に積極的に参加して、自分の考えを述べるができる。				プレゼンテーション		10%
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
合同調査や勉強会におけるコミュニケーション力が 50%、情報収集・分析力が 30%、プレゼンテーションおよびその他が各 10%で評価する。ポートフォリオで課題のフィードバックを行う。							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 ・書籍・文献調査の課題提示はポートフォリオを通して行う。 ・勉強会を実施する。 ・研究発表会を行う。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。 参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。 また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。 ※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。 ※見学・調査費用は実費とする。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：卒業研究章立て
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	卒業研究の説明	卒業研究の書き方の説明。	予習：卒業研究の準備 復習：今回の復習
4	卒業研究の指導	卒業研究の章立てをする。	予習：章立ての準備 復習：今回の復習
5	卒業研究の指導	卒業研究の章立ての指導。	予習：章立ての準備 復習：今回の復習
6	卒業研究の指導	卒業研究の文献渉猟を行う。	予習：文献渉猟の準備 復習：今回の復習
7	卒業研究の指導	卒業研究の文献渉猟を行う。	予習：文献渉猟の準備 復習：今回の復習
8	卒業研究の指導	卒業研究の文献渉猟を行う。	予習：文献渉猟の準備 復習：今回の復習
9	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究の書き方の説明。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
10	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
11	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
12	卒業研究の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	卒業研究の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	卒業研究の提出と添削	添削された卒業研究を修正する。	予習：課題の修正 復習：課題の修正
15	前期課題の受理	前期のまとめとして、修正した研究成果を提出する。	予習：課題提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CA111)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする 観光学の基本的な理解と、佐世保・西九州に関わる国際交流史の学修に基づいて、三川内焼の特徴を説明できるようにする。この説明は、2つの言語で行うことをめざす。これらを通じ、佐世保の観光対象としての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。							④⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解し、説明できる。				期末レポート	10%	
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、対象とする陶磁器の情報を収集する。				期末レポート	25%	
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会演習参加状況	35% 10%	
協働・課題解決力	三川内町でのフィールドワークの際、3年生と一緒に調査を行うことができる。				フィールドワーク参加	10%	
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への参加状況	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
1. 評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴（毎回）、自他の文化の尊重（毎回）、フィールドワーク参加状況（実施時）、ゼミ内発表会、期末レポート（40%）である。 2. フィードバックは次の時点でを行う。予習課題・復習課題：授業中、プレゼンテーション：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）							
授業の概要							
（1）調査の準備のしかた、行程の作り方の基礎を学ぶ。（2）調査対象地の窯元の方々や、地域住民の方たちと交流する。（3）資料調査を通じ、研究対象への理解を深める。また現地調査に気づいていたことを自分の中で再確認し、言語化する。（4）学修の成果を目に見える形にする。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、90分です。							
教科書・参考書							
教科書：指定しない。 参考書：『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。 指定図書：大橋康二（2004）海を渡った陶磁器。吉川弘文館。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
（1）開国祭での学術発表への参加を、必須とする。（2）観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコース、またはグローバルツーリズムコース履修生の受講を勧める。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) シラバスの内容を理解し、質問に答えられるようにしておくこと。 (復習) 指定された資料を収集し、次回に持参すること。
2	省察	1年後期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 対象観光地の歴史とアクセスを調べる。
3	事前準備 1	①三川内焼の概要、②三川内へのアクセスについての調査結果の報告	(予習) 自分で集めた情報ならびに配布された情報を読み、内容を理解しておく。
4	事前準備 2	①陶磁器の製作方法、②部分の名称についての調査結果の報告	(復習) 指示された事項の説明を箇条書きのリストにし、次回提出する。
5	事前準備 3	フィールドワークのスケジュール決定	(予習) 演習で提示できるようにスケジュール案を作成する (復習) スケジュール通りに実施するための確認をする。
6	フィールドワーク実施	フィールドワークの実施	(復習) 次回での報告に向け、調査メモを整理し、印刷する。写真・動画は報告に使うものを絞り込んでおく。
7	フィールドワーク ふりかえり 1	フィールドワークの報告 (速報)	(予習) 5 分程度の報告メモを作成・印刷する。(復習) 各人の報告のよかったところをメモにまとめ、次回提出する。
8	文献講読 1	中国の陶磁器の歴史	(予習) 所定の資料の要約 (復習) 「速報」に追加する内容を、次回で提出する。
9	文献講読 2	朝鮮の陶磁器の歴史	
10	文献講読 3	三川内焼の特徴	
11	文献講読 4	佐世保と三川内の観光の現状	
12	フィールドワーク ふりかえり 2	①第 8 週～第 11 週の学習内容を「速報」に反映させたプレゼンテーションを作成する。 ②プレゼンテーションの内容を、リーフレット (A4 版 1 ページ) にまとめる。	(予習) プレゼンの作成 (復習) 見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワーク ふりかえり 3		
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション (3 分間) ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	(予習) プレゼンの練習 (復習) ①プレゼンの評価、②目標到達状況の確認
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③後期に向けての改善点、④次の調査対象地の検討、⑤期末レポートの指示	(予習) 三川内焼についてのさらなる調査事項のリストを用意する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> 身近な内容に関して、英語で表現できるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 TOEIC の基礎的な内容を理解し、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。 							①⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	TOEIC 450 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	25%	
情報収集、分析力	基礎レベルの問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	30%	
コミュニケーション力	(1) 基礎的なコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。				(1) 受講者の発表	25%	
	(2) コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(2) 課題	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、コミュニケーション力をつけるための英文音読筆写の課題を提出してもらう。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。 2. 15 回目に小テストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後は個別にフィードバックを行う。 3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。 							
授業の概要							
<p>英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC の基礎を学ぶ。(コースの指定は特にしない。)</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『英検準 1 級 英作文問題完全制覇』 ジャパンタイムズ。及び、プリント配布。</p> <p>参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』 TEX 加藤 (著)、朝日新聞出版。</p> <p>『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』 TEX 加藤 (著)、朝日新聞出版。</p> <p>指定図書：『英語はもっと科学的に学習しよう』 白井恭弘 (著)、中央出版。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命学ぼうと努力する必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う。英語の習得方法、本専門演習の意義などについて	予習：TOEICの最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期の目標設定・面談	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。面談の実施	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	「イメージでつかむ」前置詞	前置詞のイメージ、翻訳研究、ディスカッション TOEIC問題	予習：TOEIC 1-10について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	1つに決まる the	冠詞のイメージ、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 11-20について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	導く that を使いこなす	導く that のイメージ、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 21-30について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	自分の意見を言う①	効果的なグループディスカッションについて学ぶ①。(レベル1)、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 31-40について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	迫ってくる「現在完了」	ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、現在完了のイメージ	予習：TOEIC 41-50について調べる、小テスト準備 復習：英文 41-50 音読筆写
8	躍動する「進行形」	進行形のイメージ、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 51-60について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
9	すべての-ingは躍動する	躍動する-ing形のイメージ、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習 TOEIC 61-70について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
10	未来を表す表現	ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、未来表現の方法	予習：TOEIC 71-80について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	助動詞を使いこなす	助動詞の使い方、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 81-90について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	自分の意見を言う②	効果的なグループディスカッションについて学ぶ②(レベル1)、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 91-100について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	過去形が「過去じゃない」とき	過去形のイメージ、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 101-110について調べる 復習：英文 101-110 音読筆写
14	仮定法を使いこなす	英単語もイメージで、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 111-120について調べる 復習：英文 111-120 音読筆写、振り返り
15	まとめ	休暇中の学びについて、ディスカッション、小テスト	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	中山 忠彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習 I A・I B では、「コミュニケーション力の向上」「メディアリテラシーの向上」「スポーツ指導体験」を 3 大目標として、演習を展開します。I A では、各種ワークを通じて個人およびグループにて課題解決に取り組みます（コミュニケーション力）。また、PC もしくはスマートフォンを用いた文書作成・表計算技能を習得します（メディアリテラシー）。様々なスポーツ体験と指導体験を通して、「する」「ささえる」観点からスポーツの意義の理解を深めます。遠隔授業にて実施する場合があります。</p>							① ② ⑤ ⑦ ⑩ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・スポーツの意義を説明することができる。				・課題レポート	30%	
情報収集、分析力	・PC もしくはスマートフォンを学習・研究・データ収集に効果的に活用できる。				・作業課題	20%	
コミュニケーション力	・自分の意見を適切に伝えることができるとともに、他ゼミ生の意見を柔軟に取り入れることで円滑なコミュニケーションがとれる。				・ワークへの取り組み態度とワークによる成果	20%	
協働・課題解決力	・各種ワーク・活動に対して、共同して誠実に取り組むことができる。				・ワークへの取り組み態度とワークによる成果	20%	
多様性理解力	・自分自身の長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、周囲に不快感を与えない配慮ができる。				・受講態度	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>・ワークへの取り組みと成果を評価する（評価比率：40%）。フィードバックについては、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。</p> <p>・メディアリテラシーの作業課題を評価する（評価比率：20%）。フィードバックについては、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。</p> <p>・課題レポート（評価比率：30%）：「「する」「ささえる」スポーツ体験からの気づき」について評価する。第 15 回授業時にフィードバックする。</p> <p>・受講態度（評価比率：10%）：受講ルールの遵守と積極的な受講態度を評価する。</p>							
授業の概要							
<p>本授業では、各種ワークを通じて、コミュニケーションの向上のための活動を実施します。また、PC・スマートフォンを使用しメディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにします。さらに、スポーツに関する科学的知識を理解することで、自らのスポーツキャリアが社会にどのように貢献できるかを見極めたいうえで、研究を行うための基礎力を習得します。なお、スポーツ（指導）体験を行う際、活動に関わる実費負担が生じる場合があります。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、60 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない</p> <p>参考書：「トレーニング指導者テキスト 実践編 改訂版」NPO 法人日本トレーニング指導者協会(編) (大修館書店) ISBN：978-4-469-26754-9</p> <p>指定図書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介 (杏林書院) ISBN：978-4-7644-1162-3</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

授業外における学習：様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各種スポーツの特性や可能性からスポーツの意義や価値を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集することを望みます。

学生に期待すること：スポーツの魅力を伝えることができる人になってほしい。そのためには、本演習に誠実な態度で取り組み、責任ある社会人として魅力ある人間性を身につけることを望んでいます。また、ゼミ生にはキッズ・ジュニアスポーツ指導ボランティアなど学外実習の積極的な参加を望みます。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・演習授業の進め方についての説明 ・メディアリテラシー（連絡網作成） ・自己紹介と他己紹介 	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（情報交換） ・メディアリテラシー（メール設定） ・前学期の省察を行い、目標を設定 	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標を確認
3	新体力テスト①	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの意義と実践 	予習：新体力テスト実施要項の確認 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
4	新体力テスト②	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの実施と記録① 	予習：測定手順の確認と身体づくり 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
5	新体力テスト③	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの実施と記録② 	予習：測定手順の確認と身体づくり 復習：テスト結果をもとに体力向上のための生活習慣を整える
6	コミュニケーションスキル①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを「伝える力」 ・コミュニケーションワーク（スポーツをはじめのきっかけ） 	予習：円滑なコミュニケーションの方法について調べる 復習：日常の会話で「伝える力」を意識し実践する
7	コミュニケーションスキル②	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の考えを「聴く力」 ・コミュニケーションワーク（スポーツキャリア） 	予習：円滑なコミュニケーションの方法について調べる 復習：日常の会話で「聴く力」を意識し実践する
8	スポーツ体験① 運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（交流） ・メディアリテラシー（文字入力） 	予習：運動を楽しむための手法を調べる 復習：楽しい運動遊びの立案
9	スポーツ体験② レクリエーションスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（協働） ・メディアリテラシー（タイピング練習） 	予習：レクリエーションスポーツの意義を調べる 復習：選択したレクリエーションスポーツの実践
10	スポーツ体験③ ボールゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（チームビルディング） ・メディアリテラシー（アプリ活用） 	予習：ボールゲームの特性を調べる 復習：誰もが楽しめるボールゲームの立案
11	スポーツ指導体験①	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（共有） ・メディアリテラシー（図の描画） 	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：指導実践の振り返りと改善
12	スポーツ指導体験②	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（ミーティング） ・メディアリテラシー（エクセル計算） 	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：指導実践の振り返りと改善
13	スポーツ指導体験③	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（ディスカッション） ・メディアリテラシー（表の作成） 	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：指導実践の振り返りと改善
14	トレーニング実践	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（調和） ・メディアリテラシー（文書作成） ※課題レポート（提出期限：15回授業の前日） 	予習：選択した専門スポーツについての調査 復習：専門スポーツに応じたトレーニング実践
15	総合復習	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションワーク（交流） ・課題レポートのフィードバック ・総合復習 	予習：これまでの活動の振り返り 復習：活動を振り返り、スポーツの意義を再確認する

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	落合 和昭		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
ホスピタリティは、観光事業全般において、定性的な影響をもたらすのみならず、定量的な効果をも生み出すことが広く認識されています。従って本演習では、①ホテルは複数の仕事や商品から成り立っていることが多いため、その全体を理解します。②ホテルには複数のステークホルダー（利害関係者）がいます。ホテルがそれらに与える影響を意識します。これらにより、将来のホテル事業を牽引する人材を育成することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ホテルにおける主な業務を部門別に理解し、相互に及ぼす影響についても想像することができる。				課題レポート	10%	
情報収集、分析力	最新のホテル関連記事や情報を収集し、感染症対策などホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。				授業への積極姿勢	30%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション	40%	
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、感染症の影響など、課題に対する新たなチャレンジを提案することができる。				授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢	10%	
多様性理解力	外国人や高齢者、介助を必要とする旅行者など、多様な利用客を想像し、それぞれに必要な改善策を提言することができる。				プレゼンテーション	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。							
② 「課題レポート」は提出時期（30%）内容の論理性・独自性（50%）文章構成力・形式要件（20%）で評価する。							
③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。							
④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のグループワークとりまとめなどを基に評価する							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ホテルの業務概要を学び、成果としてホテルビジネス実務検定の問題にチャレンジする。 近隣ホテルの視食や施設見学を行い、ホテルの実情を体感する。 感染症対策など、最新のホテル事情についても理解を深める。 <p>また、授業の理解度をホテルビジネス実務検定の過去問回答やレスポンスなどを利用して確認する。課題レポートは、翌週の演習でフィードバックすると同時に、1週間コンテンツに掲示する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：ホテルビジネス「基礎編」（一般財団法人日本ホテル教育センター）				指定図書：演習時に指定する。			
授業外における学修及び学生に期待すること							
① ホテル・旅館など宿泊産業や観光イベントなどの情報に興味を持ち、メディアから積極的に入手する。							
② ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行い、異文化交流を図る。							
③ 「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「ブライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。	(予習) シラバスを読んでおく。
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	(予習) 本ゼミにおける個人の目標を考えておく。
3	ホテルの組織	一般的なホテルの組織に関して説明を受け理解する。	(予習) ホテルの組織について調べておく。
4	ホテルの仕事①	教科書および職務基準書に基づき、宿泊部門の主な仕事を理解する。	(予習) 宿泊部門の仕事に関する質問を考える。
5	ホテルの仕事②	ホテルビジネス実務検定の宿泊部門について、過去問にチャレンジする。	(復習) 自分の回答について教科書を確認する。
6	ホテルの仕事③	教科書および職務基準書に基づき、料飲部門の主な仕事を理解する。	(予習) 料飲部門の仕事に関する質問を考える。
7	ホテルの仕事④	ホテルビジネス実務検定の料飲部門について、過去問にチャレンジする。	(復習) 自分の回答について教科書を確認する。
8	ホテルの仕事⑤	教科書および職務基準書に基づき、宴会部門の主な仕事を理解する。	(予習) 宴会部門の仕事に関する質問を考える。
9	ホテルの仕事⑥	ホテルビジネス実務検定の宴会部門について、過去問にチャレンジする。	(復習) 自分の回答について教科書を確認する。
10	ホテルの仕事⑦	教科書に基づき、調理部門およびホテルの基礎について理解する。	(予習) 調理部門の仕事に関する質問を考える。
11	ホテルの仕事⑧	ホテルビジネス実務検定の調理部門およびホテルの基礎について、過去問にチャレンジする。	(復習) 自分の回答について教科書を確認する。
12	ホテル視察	近隣のフルサービス型ホテルを視察し、仕事の実情や感染症対策の現状を把握する。	(予習) 視察予定のホテルに関して調べておく。
13	ホテル視察のプレゼンテーション	視察したホテルの結果についてプレゼンテーションを行い、実態の理解を深める。	(予習) 視察した内容をプレゼンテーションにまとめておく。
14	ホテルビジネス検定模試	ホテルビジネス実務検定2級(若しくは1級)模試を行う。	(予習) 対象範囲の復習をする
15	専門演習IAのまとめ	学んだことをとりまとめ、発表する。その際、現在行われている安全予防対策についても総括する。	(予習) 発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A(CF201)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本演習では、受講者がテーマに関するデータや報告書等の文献を読み、レジュメやスライドを作成して発表し、議論することを通じて、受講者の情報を収集する力、情報を批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら基礎力の養成をはかりたい。テーマを「 学校から世界を見る 」とし、受講者が、学校という場所の国際比較を通して日本と世界の教育文化の違いを理解するとともに、世界の人々の生活や文化、社会へと関心を広げていけるよう導きたい。							①⑤⑥⑧⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	データや報告書、文献などを的確に読み取ることができる。				レジュメ発表と議論	15% 15%	
コミュニケーション力	指定された形でレジュメを作成し、発表することができる。特定のテーマに関して他の受講者と議論することができる。				レジュメ発表と議論	20% 30%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	日本の学校の基本的な特徴を説明することができる。日本と他国の学校を比較し、その違いや共通点を、背景となる文化や歴史等から自分なりに考察し、説明することができる。				レジュメ発表と議論	10% 10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、レジュメの様式・内容を 45%、発表と議論を 55%の比率で評価する。レジュメやスライドは、様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。レジュメやスライドの作成方法は演習中に予め指示をし、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と議論は、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、発言し、議論に参加しているかなどを基準に評価する。演習の無断欠席（特に課題発表の担当となっている日の欠席）は大幅に減点する。							
授業の概要							
授業については概ね次の内容、手順によって進める。1. 比較教育に関する文献を読み、学校を比較する視点や意義について理解する。2. 日本の学校の特徴について基本的な事項を確認し、理解を深める。3. 国際機関等が作成した子どもの教育に関するデータや資料を概観し、国による教育の違いを大まかに理解する。4. 各自興味を持った国を選び、その国の学校について文献を用いて紹介する。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない 指定図書：二宮皓編著『世界の学校：グローバル化する教育と学校生活のリアル』（2023）学事出版 参考書：二宮皓編著『新版 世界の学校』（2013）学事出版 文部科学省『諸外国の教育動向 2021年度版』（2022）明石書店 OECD『図表でみる教育 OECD インディケータ 2021年版』（2022）明石書店							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。</p> <p>※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程を履修している学生 ・将来指導者等として子どもに関わろうとする学生 ・子どもや教育の問題について関心のある学生 ・人々の生活・文化・社会の国際比較に興味がある学生 <p>※本演習受講者（特に教職課程を履修せずに本演習を希望する学生）には「教育学」（前期開講）の受講を勧める。</p> <p>※専門演習 I A 終了後、夏期休暇中の課題として本 1 冊の講読を求める（I B にて発表）。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介および演習の進め方を説明する。	予) シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	興味関心を高める	世界の子どもの教育に関わる新聞記事について各自発表し、興味関心を高める。	予) 新聞記事の収集 復) 議論を振り返る
4	考察の視点を学ぶ①	比較教育に関する文献を読んで、学校を比較する視点や意義について理解する。	予) 指定された文献の講読 復) キーワードを中心に文献を復習する
5	考察の視点を学ぶ②	比較教育に関する文献を読んで、学校を比較する視点や意義について理解する。	予) 指定された文献の講読 復) キーワードを中心に文献を復習する
6	考察の視点を学ぶ③	比較教育に関する文献を読んで、学校を比較する視点や意義について理解する。	予) 指定された文献の講読 復) キーワードを中心に文献を復習する
7	基礎知識の確認をする①	日本の学校の特徴について、基本的な事項を確認し、理解を深める。	予) 日本の学校の特徴を整理する 復) 日本の学校に関する基本的事項の復習
8	基礎知識の確認をする②	日本の学校の特徴について、基本的な事項を確認し、理解を深める。	予) 日本の学校の特徴を整理する 復) 日本の学校に関する基本的事項の復習
9	基礎知識の確認をする③	国際機関等が作成した子どもの教育に関するデータや資料を概観し、国による教育の違いを大まかに理解する。	予) 外国の教育について知っていることを整理する 復) 世界の教育に関する基礎データの復習
10	報告手法を習得する	報告手法(担当者の割り振り、文献の報告箇所の確認、レジユメの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など)を確認する。	予) プレゼンテーションの手法について調べる 復) 報告手法の確認
11	報告の準備をする	報告手法を再度確認し、担当箇所の報告準備を行う。	予) 報告準備 復) 報告準備の継続
12	報告・議論する①	担当者がレジユメやスライドを用いて担当国の学校について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 報告準備と文献の該当箇所の講読 復) 議論を振り返る
13	報告・議論する②	担当者がレジユメやスライドを用いて担当国の学校について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 報告準備と文献の該当箇所の講読 復) 議論を振り返る
14	報告・議論する③	担当者がレジユメやスライドを用いて担当国の学校について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 報告準備と文献の該当箇所の講読 復) 議論を振り返る
15	報告・議論する④	日本と世界の学校の違いについて本演習で学んだことを整理し、発表する。夏季休暇後のスケジュールを確認する。	予) 発表準備 復) 議論を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>社会人として必要な幅広い教養的知識を有し、デザイン力、コンピュータや放送に関わる資格取得を個別に目指す。(コンピュータ関連資格、インターネット情報士、ビジネス著作権、色彩検定など)</p> <p>佐世保市のコミュニティ FM で毎週日曜日に放送される 60 分の生番組を担当する。観光の情報発信の手段として取材や調査をして FM 放送の番組を制作し情報発信する。またコンピュータの操作スキルの向上とメディアリテラシーを身につける。昨年度は番組出演、短編映画制作、動画編集など。</p>							⑥ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	情報機器や情報技術の出来事に常に関心を持ち、正しく理解することができる。				課題レポート (ポートフォリオ)	10%	
情報収集、分析力	発信する情報内容に責任を持ち、情報の真偽を判断することができる。				課題レポート (ポートフォリオ)	30%	
コミュニケーション力	情報に関するツールを使いこなし、プレゼンテーション力を身につけることができる。				課題提示に対する放送によるプレゼンテーション	40%	
協働・課題解決力	地域活性化とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に積極的・意欲的に参加することができる				授業態度・活動への参加度	10%	
多様性理解力	社会人として必要な幅広い教養的知識を身につける。				文献を要約	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Web による情報交換の活用度、地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの理解と開発内容、検定試験への取り組み、SNS による情報発信、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う</p>							
授 業 の 概 要							
<p>インターネット技術を理解しコンピュータ関連の資格取得関連はメディアルームや演習室で実施する。</p> <p>まちづくりや放送に関する演習は現地で実施し、学内スタジオや中心市街地に設けられた放送スタジオにて行う。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：なし</p> <p>参考書：</p> <p>指定図書：『伝える力』PHP 研究所</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。</p> <p>情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。</p> <p>※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。</p> <p>観光マネジメント グローバルツーリズム スポーツツーリズム</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	番組視察	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	予：活動拠点・スタジオの場所を把握する。
3	資格試験対策・面談	資格試験対策のポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：資格の調査分析
11	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
5	活動参加	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	予：活動拠点をインターネットで調査
6	資格試験対策	資格取得の内容分析	予：資格の調査分析
7	プレゼンテーション	プレゼンテーション作成の基礎ソフトウェア操作の演習	予：プレゼンテーション機器の活用
8	デザインツールの活用	ソフトウェアの操作習得	予：映像関連ソフトの導入
9	デザインツールの活用	アニメーション画像技術、画像編集	予：映像関連ソフトの活用
10	デザインツールの活用	プロ志向の本格的なデザインの演習（パス・アンカー処理）	予：デザイン関連ソフト導入
11	デザインツールの活用	プロ志向の本格的なデザインの演習（レイヤー・グラデーション処理）	予：デザイン関連ソフト活用
12	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
13	情報発信	コンテンツ作成と管理、番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
14	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：コンピュータを使い作成する
15	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：番組テーマを決定して作成原稿の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	佐野 香織		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ことば、文化、社会をつくる学びのうち、基礎的な知識を総合的に扱い検討する力を培うことを目的とする。ことば、文化、社会の課題に関する知識を学び、フィールドワーク、実践を通して、主体的に気づきを問いなおし、多文化共生社会を考えていく力を培う。							①④⑤⑥⑧⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	多文化が進む日本をとり巻くことば、文化、社会に関する基礎知識を理解することができる。				レポート	15 %	
情報収集、分析力	フィールドワークで身の回りの課題の情報収集をし、分析、考察することができる。				発表資料 事前・事後学習	10 % 20 %	
コミュニケーション力	多様性を考え、対話することができる。				発表 ディスカッション	45 %	
協働・課題解決力							
多様性理解力	グループでの対話、フィールドワークを通して多様性を理解することができる				発表 相互評価 自己評価	10 %	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
本演習で学んだ基礎知識に関する理解と考察(事前・事後学習、レポート)で45%、身近な課題を考え検討する発表セッション運営(資料、運営、ディスカッション)で45%、授業で行うグループディスカッション、活動参加貢献、協働での学びへ評価(自己、相互評価)で10%、で評価する。各課題に題するフィードバックは授業内で行う。							
授業の概要							
働く場、日々の暮らし、観光の場においても異なる文化的背景を持つ人々と共に生きていく時代、ことばは重要な役割を果たす。本演習では、これからの社会における「ことば」のあり方を考え、新たな「ことば」をつくり発信していくために、対話、フィールドワークを通して基礎知識を学んでいく。 ※スケジュールは変更することがある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：有田佳代子ほか(2018)『多文化社会で多様性を考えるワークブック』研究社 参考書：適宜紹介する 指定図書：細川英雄『対話をデザインする』ちくま書房							
授業外における学修及び学生に期待すること							
このゼミは、様々な観点からことばで人と社会をつなぐ実践をしてみたい学生を対象としています。学内外で色々な人と会って話すことが好きな人、主体的にプロジェクトができる学生に向いています。留学生が受講する場合は、事例を読み解くことができること、自分のことばでまとめながらケースセッション運営できること、記事や報告レポートを書き発信することができる日本語力が必要です。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、方法の説明 目標、スケジュール、課題の確認	予習：教科書の「はじめに」 を読んでくる 復習：個人目標をポートフ ォリオに書いてくる
2	面談	前学期の省察 本学期の目標設定	本学期の目標設定
3	異文化間ソーシャルスキル	多様な文化を持つ人が多文化社会を共に生きていく ことを理解し、考えていく	予習：教科書の「ウォーミ ングアップ」をしてくる 復習：「まとめ」を書く
4	寛容性 「心が広い」とは？	社会における寛容性、不寛容性について学び、今後の 姿勢を考えていく	予習：教科書の「ウォーミ ングアップ」をしてくる 復習：「まとめ」を書く
5	アサーション・トレーニング	自分の感情を適切に表現し相手に伝える・伝えないこ とを考える	予習：教科書の「ウォーミ ングアップ」をしてくる 復習：「まとめ」を書く
6	コンセプトづくり①	フィールドワーク①ー1	予習：フィールドワーク準 備 復習：まとめ、ふりかえり
7	コンセプトづくり②	フィールドワーク①ー2	予習：フィールドワーク準 備 復習：まとめ、ふりかえり
8	ユニバーサル・デザイン	フィールドワーク②	予習：フィールドワーク準 備 復習：フィールドワークま とめ
9	ユニバーサル・デザイン	ユニバーサル・デザインの基本的な概念を理解し、実 際の日常生活を取りまく環境を考えていく。	予習：教科書の「ウォーミ ングアップ」をしてくる 復習：「まとめ」を書く
10	多様な「ことば」とコミュニ ケーション	フィールドワーク③	予習：フィールドワーク準 備 復習：フィールドワークま とめ
11	多様な「ことば」とコミュニ ケーション	広いい意味での言語（手話、方言、色、音等）のあり 方を知り、これからの「ことば」を考える	予習：指示された箇所を読 み、課題をしてくる 復習：「まとめ」を書く
12	発表準備	ペア、またはグループで準備	発表準備
13	発表	発表 フィールドワーク①	予習：発表準備 復習：省察シート
14	発表	発表 フィールドワーク②、③	予習：発表準備 復習：省察シート
15	ふりかえり	今学期の学びとセッションのふりかえりを行い、次学 期の学びを考える	予習：これまでの省察 個人ポートフォリオ記入 レポート作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
テーマ：国家資格『国内旅行業務取扱管理者』試験の「旅行業法」「約款」をマスターする。 国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指したゼミとする。 特に旅行業法、約款に力を入れる。国家試験は9月上旬							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	最終的な目標である国内旅行業務取扱管理者試験のうちの「旅行業法」と「約款」で60点以上取得できる。				模擬試験	20%	
情報収集、分析力	旅行業のみならず宿泊業、運輸交通業かなり専門的な分野までその法規及び実務を理解する。				模擬試験	30%	
コミュニケーション力	旅行業及び関連業界への関心が高まり、かつ自らの旅行意欲が高まる。かつ積極的にゼミ以外でも仲間ともに自主的な勉強会ができる。さらに下級生の指導ができる。				グループディスカッション	40%	
協働・課題解決力	旅行業としてやってはいけない行為は何かが判断できる。客のニーズに応えた旅行業の在り方を旅行業法と共に考えることができる。				グループディスカッション	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
学生が持ち回りで講師を務め、担当部分の課題を準備し、講義する。その際に、出された質問に対して回答する。これらグループディスカッションの取り組みを評価する（評価比率50%）。また、模擬試験を3回受験し、この点数を基に評価する（評価比率50%）。各課題のフィードバックは、授業時に適宜行う。							
授業の概要							
本専門演習では国内旅行業務取扱管理者試験の合格をめざし、1年次から開講されている「旅行業法・約款」の授業で学習したものを範囲として、学生主体で問題を解きながら進めていく。形式としては勉強会を考えてほしい。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教科書・参考書							
教科書：『旅行業実務シリーズ1 旅行業法及びこれに基づく命令』 JTB 総合研究所 『旅行業実務シリーズ2 旅行業約款 運送・宿泊約款』 JTB 総合研究所 指定図書：『旅行業実務シリーズ1 旅行業法及びこれに基づく命令』 JTB 総合研究所 『旅行業実務シリーズ2 旅行業約款 運送・宿泊約款』 JTB 総合研究所							
授業外における学修及び学生に期待すること							
欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。 単位を既に取得していても、「旅行業法・約款」の授業には出席して欲しい。国試合格のためにも、模試を受験すること（模試費用は5,500円）。なお、国家試験を受験しない者には特段の理由がない限り、単位を出さないで注意してください。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	前期の進め方を説明する。	ループリック入力
2	省察、個人目標の設定	前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	ループリック入力
3	旅行業法 (1)	法の目的、旅行業の定義 登録制度、登録拒否、登録変更	旅行業法 第1～6条の予習、復習
4	旅行業法 (2)	営業保証金制度、旅行業務取扱管理者	第7～11条の予習、復習
5	旅行業法 (3)	料金揭示、旅行業約款、取引条件説明、書面交付	第12条の該当箇所の予習、復習
6	旅行業法 (4)	外務員、広告、標識、企画旅行の円滑な実施措置	第12条の該当箇所の予習、復習
7	旅行業法 (5)	旅程管理業務、禁止行為、旅行業者代理業	第12～14条の該当箇所の予習、復習
8	旅行業法 (6)	業務改善命令、旅行業協会、旅行サービス手配業	第18条～該当箇所の予習、復習
9	旅行業約款 (1)	募集型企画旅行の部 第1章総則、第2章契約の締結	募集型企画旅行の部 第1～12条の予習、復習
10	旅行業約款 (2)	募集型企画旅行の部 第3章契約の変更、第4章契約の解除	募集型企画旅行の部 第13～16条の予習、復習
11	旅行業約款 (3)	募集型企画旅行の部 第4章契約の解除、第5章団体契約、第6章旅程管理	募集型企画旅行の部 第13～26条の予習、復習
12	旅行業約款 (4)	募集型企画旅行の部 第7章責任	募集型企画旅行の部 第27～28条の予習、復習
13	旅行業約款 (5)	募集型企画旅行の部 第7章責任 受注型企画旅行の部	募集型企画旅行の部 第29～30条の予習、復習 受注型企画旅行の部 第1～7章の予習、復習
14	旅行業約款 (6)	手配旅行契約の部、旅行相談の部	手配旅行契約の部 第1～7章の予習、復習 旅行相談の部の予習、復習
15	運送・宿泊約款	運送約款、宿泊約款の概要と重点ポイント	運送約款、宿泊約款の予習、復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	竹田 文雄		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
2020 年の COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) のまん延により、世界の観光・旅行産業は未曾有の危機に陥りました。その後の観光・旅行産業は世界的に見ても徐々に回復しつつあります。しかしながら COVID-19 以前のものにそのまま戻るわけではなく、あらたな形を模索しながら回復しつつあることは学生の皆さんも感じていることと思います。これからの日本の旅行業界や観光業界を学ぶ上で、この「観光再生」というテーマを理解しようと努めることは必要不可欠な要素です。そのため、テキストを用いて他のゼミメンバーと一緒に考えながら「観光再生」について理解しようとする試みが本授業のねらいです。							①②⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力						%	
情報収集、分析力	マスメディア、ネットワークメディア等を活用できる。(新しいことを始める際の情報の収集と、それら情報の取捨選択。)				・プレゼンテーション	10%	
コミュニケーション力	自らが率先してインバウンドを語ってみるといふ確固たる意志を持ち、毎回の課題に積極的に参画できる。				・課題参画 ・プレゼンテーション	30% 30%	
協働・課題解決力	グループ内での会話の実践と、その場の取り纏めができる。(アウトプットの実行。)				・課題参画	30%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
何事にも積極性を求めます。特に「ディスカッションの場での積極的な発言と事前準備の有無」に着目します。週次の演習を「どのように準備して、どの様に考えて、どの様に表現できたか？」の観点にて、「成長度合い」、「参画意識」、「プレゼンテーション等のアウトプット成果」の3つの要素を主な評価軸とします(評価比率は上掲)。諸々のフィードバックは、授業時間内に、またはポートフォリオを用いて適宜実施していきます。							
授業の概要							
教科書を使用します。 <u>毎回必ず予読をした上で、教科書を授業に持参しなければいけません。</u> 授業スキームは、前半は毎回の定められた範囲について、担当教員のリードで内容の確認を行っていきながら解説をしていきます。授業の後半は、学生同士でのディスカッションの時間に当てます。当日の定められた範囲の中で担当教員が検討課題を提示します。その課題についてディスカッションを行ってもらい、最後の10分で「今日のまとめ」を学生から提示してもらいます。特に後半は「メンバー学生の発言・コメントを担当教員が聴く」形です。なお学外調査等での授業振り替えの可能性があり、また効果が期待出来る際は担当教員の判断でテーマ補正を行います。標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とします。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：『観光再生 サステナブルな地域をつくる28のキーワード』： 村山 慶輔 プレジデント社 指定図書： 『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』： 宗田 好史 学芸出版社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
欠席・遅刻の際は、必ず事前に連絡を入れること。まずは大人の受講態度を求めます。次に必ず毎回予習(予読)を行うこと。予読を行うことで授業中の理解度は格段に向上します。そして学生の皆さんの自発的な積極性に期待します。なお、自ら発言しようという気概の無い学生、「わかりません」「特に何もありません」が口癖の学生、克己しようとする気概の無い学生にとっては、毎回の授業が苦痛をとまなう時間となり、また他のメンバーにも迷惑をかけることにもなるので、当演習は向いていません。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	全体の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・この一年で何をを目指すのか？の確認 ・演習全体の方向性の説明とメンバーの自己紹介等 	予：シラバスの読込み。 5分自己紹介の準備。 復：何をを目指すのか？を あらためて考える。
2	個人面談・目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・演習開始に際するメンバー個々の興味の確認、個人目標の設定、等 	予：目指す事を5分間で 発表する為の準備。 復：個人目標の確定。
3	第1章	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブル・ツーリズム 	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
4	第2章	<ul style="list-style-type: none"> ・リジェネラティブ・トラベル 	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
5	第3章	<ul style="list-style-type: none"> ・地域教育とシビックプライド 	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
6	第4章	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・ツーリズム 	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
7	第5章	<ul style="list-style-type: none"> ・観光貢献度の可視化 	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
8	第6章	<ul style="list-style-type: none"> ・量から質へ（発想の転換） 	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
9	第7章	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPの策定 	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
10	第8章	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロモビリティ 	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
11	第9章	<ul style="list-style-type: none"> ・観光型 Maas 	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
12	第10章	<ul style="list-style-type: none"> ・DX（デジタルトランスフォーメーション） 	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
13	第11章	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートツーリズム 	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
14	第12章	<ul style="list-style-type: none"> ・バーチャルツーリズム 	予：テキストの予読。 復：ディスカッションの 振り返り。
15	第13章 第14章 前期総括	<ul style="list-style-type: none"> ・ライブコマース ・AI・ロボット / 非接触型機器 ・個別総括の発表（@10分） 	予：テキストの予読。 個別総括の仕上げ。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
大学における学びを通して実現したい自分の目標の設定を、自分への問いと対話によって言語化していくことで、自分の環境に対するまなざしを育む。またさまざまな地域課題についての課題についてSDGs の視点を通した持続可能性をテーマに理解し、地域課題の解決につながる地域観光まちづくりの意義について考える。							②⑥ ⑦⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	<ul style="list-style-type: none"> SDGs の理念や地域観光とのつながり理解する。 現在直面している地域課題と市場の動向について理解する。 				レポート作成		20%
情報収集、分析力	域内における社会課題の最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。				・授業への積極的な姿勢		30%
コミュニケーション力	自分自身に問いを立て、あるべき姿を言語化できる。周りの人に対して関心を持ち、問いによるコミュニケーションができる。				・プレゼンテーション		40%
協働・課題解決力	自分の役割を設定し、グループでの企画書作成作業に貢献する。				・授業への積極的な姿勢		10%
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業への積極的な姿勢」(40%)は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。</p> <p>「レポート」(20%)は内容の論理性・独自性を重視して判断します。</p> <p>「プレゼンテーション」(40%)は、様式や見やすさに加え、内容、発表態度などをもとに評価する。</p> <p>フィードバックは、レポート返却時及びポートフォリオを通して行います。</p>							
授業の概要							
<p>コミュニケーションの基本である「聞く力」「伝える力」の基本を学び、地域に関わる人との関係構築につなげるだけでなく、SDGs の基礎知識の習得により、持続可能な地域の在り方に対する認識を持ったうえで、大学や自分の周りで起こっていることを自分事に考える「考える力」「読み解く力」を得ることを授業の目的とする。</p> <p>具体的には、コミュニケーションの学びでは1対1の対話と自分自身の目標設定のための内省を中心に行い、SDGs 探究においては、地域における課題を考え、あるべき方向性についてグループで調査、議論によりその成果をメンバーとともに研究・発表を行なう。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書/参考書：『図解でわかるSDGs』平本督太郎（メイツ出版）</p> <p>指定図書：『持続可能な地域の作り方』箕 裕介（英治出版）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>地域観光の研究においては、多くの学外機関の方との連携や協力の中で自らの考えを深めていくことが求められます。自ら発信者となるコミュニケーションを可能にし、社会課題を持続可能な視点で考え、「規範的・倫理的判断力」の獲得を目標に、新しい時代の社会に貢献するアイデアを実現させる積極的に参加する学生の受講を期待します。また、プレゼンや企画書面の作成など表現スキルの向上に取り組むことも期待します。</p>							

回	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	メンバー自己紹介 演習概略およびゼミの運営方法を確認する。	(予習) 事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる。
2	個人目標の設定	個別面談による目標設定をおこなう。	(予習) 自身のこれまでの取り組みや興味・関心をまとめてくる。
3	目標設定とコミュニケーション①	自分に対する問いを立てる。 Have toではなく Want to	(復習) 課題ワークシートの完成
4	目標設定とコミュニケーション②	目標設定と行動変容 目的と目標の違い	(復習) 課題ワークシートの完成
5	目標設定とコミュニケーション③	自分自身の理想についてオープンに考える (ビジョンドリブン)	(復習) 学習内容と教科書の読み直し
6	目標設定とコミュニケーション④	対話によるコミュニケーションの効果を考える。	(復習) 学習内容と教科書の読み直し
7	目標設定とコミュニケーション⑤	目的を持った対話によって相手を理解する。	(復習) 学習内容と教科書の読み直し
8	目標設定とコミュニケーション⑥	自分の感情をコントロールすることによって人との信頼関係を構築する。	(復習) 学習内容と教科書の読み直し
9	目標設定とコミュニケーション⑦	リーダーシップについて考える。	(復習) 学習内容と教科書の読み直し
10	SDGs の基礎知識習得①	SDGs の基本や取り組む意味について	(復習) 学習内容と教科書の読み直し
11	SDGs の基礎知識習得②	SDGs の基本的な概念 (17 のテーマ)、用語について学ぶ。	(復習) 学習内容と教科書の読み直し
12	SDGs の基礎知識習得③	全員がテーマを決めて SDGs クイズを制作する。	(予習) 「17 のテーマのうちから一つ選んで実態を調べる」
13	SDGs の基礎知識習得④	SDGs のテーマごとの実態について調べて発表する	(復習) 自分の興味・関心をレポートにまとめる
14	SDGs の基礎知識習得⑤	地域課題の連鎖について考える	(復習) これまでの学びから自分の興味関心をまとめる。
15	目標設定とコミュニケーション⑧	自分の前期の学びを言語化して、発表する。	

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	山内 美穂		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、観光のことばや異文化理解について考えます。観光やまちの「ことば」の観察を通して、考える力や発見する力、説明する力を養います。また、演習を通して異文化理解や多文化共生社会におけるコミュニケーションについても考えます。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	自分が担当した「問い」の答えについて分かりやすい資料を作れる。テーマに沿って調べ、プレゼンテーションできる				発表資料 プレゼンテーション	20% 20%	
コミュニケーション力	自分が担当した「問い」の答えについて自分のことばで説明できる。他人の発表に対して意見を述べられる。グループメンバーと協力して発表やプレゼンテーションの準備ができる。				発表 議論 発表準備	30% 20% 10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分の担当箇所の発表資料の作成で20%、授業での発表で30%、プレゼンテーションで20%、授業の議論への参加で20%、発表準備の状況で10%を評価します。発表内容、プレゼンテーションに関しては、授業中または個別にコメントの形でフィードバックします。							
授業の概要							
履修者は、テーマに沿って教員が投げかけた「問い」について考え、議論しながら、観光のことばや異文化理解について学習します。また、各テーマの発表者は、授業の中で出されたテーマに対して十分に考え答えを準備しておき、授業の中で発表します。発表者以外の人、配布した資料の該当箇所を読みこみ、積極的に質問やコメントし、全体でディスカッションします。いくつかの演習を通して、観光やまちのことばについて、また、さまざまな文化背景を持つ人が暮らす社会や観光の在り方について考えます。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：授業中に指示する 参考書：磯野英治『言語景観から学ぶ日本語』大修館書店、2020 指定図書：磯野英治『言語景観から学ぶ日本語』大修館書店、2020							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、観光のことばに関心がある学生や、異文化理解や多文化共生社会に興味がある学生の受講を希望します。留学生の受講に関しては、授業内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。 授業外でも目や耳に入る「ことば」に敏感になって下さい。また、全国各地出身の仲間と協働することを楽しんでほしいです。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	ゼミの仲間、お互いを知る。 授業の進め方、発表の方法について説明。	予習：「シラバス」を読ん でくる
2	前学期の省察と本学期的 目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、 それを基に本学期的の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学 期の目標設定の下書き 復習：本学期的の目標設定の 清書
3	異文化理解とは何だろう ①	演習を通して「異文化理解」について考える	予習：「異文化理解①」につ いて資料を読ん でくる。 復習：異文化理解課題①。
4	異文化理解とは何だろう ②	学外学習など、実践を通して「異文化理解」について 考える	予習：「異文化理解②」につ いて資料を読ん でくる。 復習：異文化理解課題②。
5	異文化交流①	他大学の各国留学生とオンライン交流①	予習：「異文化理解①」での 事前課題をしてくる。 復習：振り返りシート記入。
6	バーンガ	「バーンガ」というゲームを通じて、異文化に接触時 の疑似体験をする	予習：「バーンガ」について 資料を読ん でくる。 復習：振り返りシート記入。
7	非言語コミュニケーション	「非言語コミュニケーション」について理解する どんな「非言語コミュニケーション」があるか考える	予習：「非言語コミュニケー ション」について資料を読 んでくる。 復習：関連課題。
8	外国語でのコミュニケー ション	演習を通して「外国語でコミュニケーション」するこ との楽しさや難しさを考える	予習：「外国語でのコミュニ ケーション」について資料 を読ん でくる。 復習：学んだ外国語復習。
9	異文化交流②	他大学の各国留学生とオンライン交流②	予習：「異文化理解②」での 事前課題をしてくる。 復習：振り返りシート記入。
10	観光とことば① 「やさしい日本語」と観光 のことば	「おもてなし」のことばを「やさしい日本語」に。	予習：「やさしい日本語」に ついて資料を読ん でくる。 復習：案内表示を「やさし い日本語」に変える課題。
11	観光とことば② 通訳案内士の仕事	通訳案内士の仕事や現状について話を聞いて理解す る。(ゲストスピーカー)	予習：「通訳案内士の仕事」 について資料を読む。 復習：講話から考えたこと を振り返りシートに書く。
12	「身の回りのことば」を考え る ☆オノマトペ①	オノマトペについて理解する。	予習：配布資料「オノマト ペ」を読む。 復習：オノマトペを探す
13	「身の回りのことば」を考え る オノマトペ②	学内と学外で、オノマトペをさがして分析しよう。	予習：配布資料「オノマト ペ」を読む。 復習：さがしたオノマトペ の分析。
14	異文化交流③	他大学の各国留学生とオンライン交流③	予習：「異文化理解③」での 事前課題をしてくる。 復習：振り返りシート記入。
15	最終プレゼン	本学期的に学び関心がある項目についてプレゼンテー ション。	予習：学期内に学修した内 容をプリントなどで復習。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA (CF201)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
This course provides an introduction to discussing and presenting ideas about current global affairs. Working in stages, students learn basic technical, academic and communication skills necessary for an engaging and informative presentation.							② ④ ⑤
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力						%	
情報収集、分析力	Students will be able to read about and discuss global affairs			Assignments Presentation		30% 10%	
コミュニケーション力	Students will be able to present ideas about global affairs in a way that engages their audience			In-class engagement Presentation		30% 30%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席				受験要件			
合計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions, and active participation): 30% Assignments (weekly writing assignments, project preparation): 30% Final presentation: 40% * All feedback is provided via rubrics and comments in the online gradebook (https://niu.9learn.net/ and Google Classroom)							
授業の概要							
In the first few classes, students discuss current events topics that are of interest to them. From this, they move on to building an academic presentation about one of these topics. Working in stages, students build their knowledge and ability to communicate their ideas and engage with others in a group setting. The project culminates in a final presentation with extended Q&A / class discussion.この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書 : None 参考書 : English newspapers in the library 指定図書 : Hot Topics Japan 2							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ol style="list-style-type: none"> 1. This course is conducted in English. 2. Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work. 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change. 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	Introduction	<ul style="list-style-type: none"> • Introduce the course and review the syllabus • Basic framework for selecting and discussing current events 	Read syllabus in advance
2	Personal goal setting	<ul style="list-style-type: none"> • Conference with seminar teacher about personal goals for the semester / <i>Rubric Hyoka</i> 	Prepare goals
3	Current Event Topic 1 Presentation beginnings	<ul style="list-style-type: none"> • Students discuss selected current events topic. • Effective introductions and message objective 	Prepare current event topic 1
4	Current Event Topic 2 Basic slide design	<ul style="list-style-type: none"> • Students discuss selected current events topic. • Overview of basic slide design principles 	Prepare current event topic 2
5	Mini-presentation 1	<ul style="list-style-type: none"> • Students present part 1 of their presentation 	Prepare mini-presentation
6	Signposting for clarity	<ul style="list-style-type: none"> • Feedback on mini-presentation 1 • Using signposting to make a clearer presentation 	Check feedback
7	Describing visuals	<ul style="list-style-type: none"> • Describing what's on your slides • Including sources 	Review signposting
8	Describing visuals Engaging the audience	<ul style="list-style-type: none"> • Describing what's on your slides • Engaging the audience 	Review slide visuals
9	Mini-presentation 2	<ul style="list-style-type: none"> • Students present part 2 of their presentation 	Prepare presentation
10	Making a conclusion	<ul style="list-style-type: none"> • Feedback on mini-presentation 2 • Summarizing ideas • Re-emphasizing the message objective 	Check feedback
11	Designing handouts	<ul style="list-style-type: none"> • The role of handouts • Types of handouts 	Review conclusions
12	Doing a Q & A	<ul style="list-style-type: none"> • The role of Q&A • Basic participation in a Q&A • Managing difficult questions 	Review handouts
13	Final Presentations	<ul style="list-style-type: none"> • Students present and participate in Q&A 	Prepare for presentation and Q&A
14	Final Presentations	<ul style="list-style-type: none"> • Students present and participate in Q&A 	Prepare for presentation and Q&A
15	Final Presentations Wrap-up	<ul style="list-style-type: none"> • Students present and participate in Q&A • Final class discussion 	Prepare for presentation and Q&A Submit final report

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A(CF201)			担当教員	浦郷 淳		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習のテーマは「経験と教育」である。経験とは、これまでの生活の中全てで得てきたものであるが、ここでは特に学修履歴に焦点をあてる。そして学修履歴と自身がこれまでに受けてきた教育とを結び付け、今様々にある教育の根幹に関心を向けられるように導きたい。演習では、自身の経験を整理し、文献や報告書と照らし合わせながらレジュメを作成、発表し、質疑応答・議論をする中で自らの学修を価値づけられるようにしていきたい。教職課程履修者には模擬授業を行う場を設け、教師としての資質も高めていきたい。その過程で、情報を整理・分析する能力、集めた情報を的確に表現し、論理的に示す能力、ディスカッションを通して受講者相互の相違を理解する多様性の理解力、これら基礎力の養成をはかりたい。学修の成果は、外部への発信へとつなげていきたい。</p>							③⑤⑥⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	データや資料等の文献を的確に分析することができる。 発表を基に、自身の経験を類別することができる。				レジュメ レポート等	20% 20%	
コミュニケーション力	レジュメを用い、聞き手を意識した表現（模擬授業）ができる。 発表に関して、他の受講者と質疑応答・議論に参加できる。				発表・応答 質疑応答・議論	20% 30%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	自らの経験と他者の経験の違いを理解し、経験の多様性について尊重した上で議論することができる。				質疑応答・議論	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ○ 評価については、レジュメの様式・内容を20%、発表（模擬授業）と質疑応答・議論を60%、発表と議論の振り返りとなるレポートを20%の比率で評定する。 ○ レジュメは、①様式の順守②引用文献のルールの順守③事実と考察、分析の的確さ④自らの学修の履歴の整理等で評定する。レジュメの作成方法については演習中に例示し、随時修正個所の指摘やアドバイスを行う。 ○ レポートは、発表後に提出する。提出方法については授業内で提示する。①議論を受けた加筆修正②自らの学修の履歴の整理等で評定する。 ○ 発表者は、①聞き手を意識した資料の用意と発表の様子②質問の意図を理解した応答等で評定する。 ○ 質疑・議論では、①端的な質問②相手を尊重した議論で評定する。 							
授業の概要							
<p>授業については、概ね次の手順によって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の経験について表出し、整理し、分析する手段について理解する。（思考ツール） 2. 学校教育に焦点をあて、学校教育を成立させている枠組みについて理解する。（教育課程論） 3. 自身の学修経験が、学校教育の中においてどのような位置づけであるのかを整理する。 4. 自身が整理したものを発表、共有し、自らの学修経験を価値づける。 <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない（資料は適宜配布する）参考書：奈須正裕『子どもと創る授業』ぎょうせい（2013） 指定図書：松尾睦『経験からの学習』同文館出版（2010）文部科学省「学習指導要領」※授業で説明する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当外の論考も必ず読み、不明な語句は調べておくこと。また、関連資料及びニュース等には目を通しておくこと。 2. 議論については相互の意見を尊重し、建設的なものになるよう努めること。 3. 議論の中で出された意見等について個々に整理し、復習すること。 4. 留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。留学生の受講も歓迎しますが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧めます。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。 受講者の問題意識等を共有する。	予) シラバスの確認
2	本学期の目標設定	本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別 面談を行う。	予) 本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	経験とは何かを考える①	幼少期の子どもの経験について、文献を基に検討す る。	予) 配布資料の通読 復) 検討したことを振り返り、幼少期の経験について 整理しておく
4	経験とは何かを考える②	学齢期の子どもの経験について、文献を基に検討す る。	予) 配布資料の通読 復) 検討したことを振り返り、学齢期の経験について 整理しておく
5	自らの経験を整理する	自らのこれまでの学修の履歴を振り返り、記憶してい るものを整理する。	予) 自らの経験を振り返り 整理しておく 復) 受講後思い出した経験 等を整理しておく
6	自らの経験を辿る①小学校	整理した経験のうち、小学校に関するものが学校にお いてどのような位置づけであるのかを、小学校学習指 導要領を基に検討する。	予) 小学校の学習指導要領 に目を通す 復) 小学校の学習指導要領 で経験の内容を振り返る
7	自らの経験を辿る②中高	整理した経験のうち、小学校に関するものが学校にお いてどのような位置づけであるのかを、中学校・高等 学校学習指導要領を基に検討する。	予) 中・高の学習指導要領 に目を通す 復) 中・高の学習指導要領 で経験の内容を振り返る
8	自らの経験に焦点をあてる ①	自らの経験のうち、記憶している学校教育下における ものの中から、発表する事項を選択する。 発表の方法を学ぶ。	予) 自らの学校での経験を 整理しておく 復) 発表方法を確認する
9	焦点をあてた経験を発表す る (模擬授業) ①	担当者が作成したレジュメをもとに議論する。	予) レジュメ作成もしくは 不明語句調べ 復) 議論でわからなかった 語句調べ
10	焦点をあてた経験を発表す る (模擬授業) ②	担当者が作成したレジュメをもとに議論する。	予) レジュメ作成もしくは 不明語句調べ 復) 議論でわからなかった 語句調べ
11	焦点をあてた経験を発表す る (模擬授業) ③	担当者が作成したレジュメをもとに議論する。	予) レジュメ作成もしくは 不明語句調べ 復) 議論でわからなかった 語句調べ
12	自らの経験に焦点をあてる ②	発表以外での記憶している経験について、受講者相互 に紹介し、学校教育においてどのような位置づけにな るかを全体で議論する。	予) 発表していない学校で の経験を整理しておく 復) 自らの経験を再度学習 指導要領で見直す
13	学校における経験について 議論する (模擬授業) ①	受講者が記憶していた経験が、学校教育上どのような 意義があるのかを全体で検討するとともに、覚えてい ない経験について資料を基に検討する。	予) 学習指導要領に目を通 しておく 復) 学校教育上の経験につ いて振り返る
14	学校における経験について 議論する (模擬授業) ②	記憶していないが、取り組んでいるであろう経験を抽 出し、その学習の意義について検討する。	予) 忘れていた経験を思い 返す 復) 議論を振り返る
15	経験と教育について整理す る	本演習で学んだことを整理し、議論する。夏季休暇後 のスケジュールを確認する。	予) 学んだことを振り返っ ておく

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A(CF201)			担当教員	江島 弘晃		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
<p>専門演習 IA および IB ではスポーツ・健康科学に関する情報を収集し、分析する能力を習得することを目的とする。とくに、健康をキーワードにスポーツとの関連性や心身統合の調和における運動の意義等を資料による解説、発表、討論を通して理解を深める。その際、学生がPCなどを用いた文書・表図からスライドを作成することで、プレゼンテーション能力を習得する。IA では受講者が関連分野に関するテキストの精読と正確な要点を集約することができることを目標とする。</p>							②⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ・健康科学に関する情報を収集し、分析することで自身の競技種目又は健康管理に関する問題点を抽出することができる。 					<ul style="list-style-type: none"> 情報収集 	30%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションにおいて自分自身の意見を述べる事が出来る。 自分自身が調査した内容を簡潔に発表することが出来る。 					<ul style="list-style-type: none"> 発表内容 他者の主張を踏まえた議論の展開 	70%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>各自が設定した課題・テーマに関する先行研究や資料を選択することでスポーツ・健康科学に関する情報を収集し、それらを基にした適切な要約を作成しているか否かを評価する（評価比率:30%）。また、作成した要約を自身の考察をプレゼンテーションで適切に表現し、他者の意見を踏まえた議論が展開出来ているか否かを評価する（評価比率:70%）。授業の課題は、ポートフォリオを通して行う。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>スポーツ・健康科学に関するテキストや原著論文を輪読する。輪読の際、PC 等を用いて文書・表図作成またはスライド作成の技法を習得する。輪読の決定、精読、資料作成は、担当者が事前（演習授業の時間外）に準備する。反転授業を視野に入れ、輪読の報告は担当者自身がプレゼンテーションによって行い、ディスカッション（議論・討論）は参加者全員で行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：長澤純一他「大学生のための「健康」論」（道和書院）ISBN：978-4-8105-2132-0 指定図書：長澤純一他「大学生のための「健康」論」（道和書院）ISBN：978-4-8105-2132-0</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習を通してスポーツ・健康科学の研究分野に触れることで、自身の競技種目に反映できる、または疾病予防に向けた運動処方に応用できる基本的な知識を獲得することを望む。また、本演習ではコミュニケーション能力、課題の取り組み、プレゼンテーション能力からディスカッション能力といった社会人の素養を獲得することも目指す。そのため、挨拶や時間厳守などの基本的な社会行動を守るとともに、授業欠席などの際には事前に担当教員に連絡することが望ましい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習授業の進め方についての説明 ・ 自己紹介 ・ 連絡網の作成 	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前学期の省察を行い、各個人の本学期の目標を設定する 	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標設定の確認
3	輪読の準備 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワード、エクセル、パワーポイントなどを取得 	予習：PCの準備 復習：ソフトの使用方法を復習
4	輪読の準備 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワード・パワーポイントによる資料作成方法の習得 	予習：事前にソフトを活用する 復習：資料作成の方法の復習
5	輪読の準備 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員による参考書・テキストなどの紹介 	予習：参考書などの通読 復習：授業で輪読した箇所の復習
6	輪読 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員による輪読・発表 (テーマ・健康を考える) 	予習：健康に関する自身の考察をまとめる 復習：健康の意義について復習
7	輪読 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・健康とメンタルヘルス) 	予習：メンタルヘルスの調査 復習：現代のメンタルヘルスについて復習
8	輪読 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・健康と体力) 	予習：体力に関する意識調査 復習：健康と体力の関連性について復習
9	輪読 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・運動プログラム) 	予習：運動プログラムの事前調査 復習：運動プログラムの種類について復習
10	輪読 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員による輪読・発表 (テーマ・健康とスポーツの関係) 	予習：テーマに関する事前調査 復習：生涯スポーツについて復習
11	輪読 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・運動を文化としてとらえる) 	予習：運動の文化に関する調査 復習：運動文化論の概念について復習
12	輪読 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者による輪読・発表 (テーマ・健康と食事・栄養の関係性) 	予習：健康と栄養の関連性についての調査 復習：スポーツ栄養学について復習
13	論文検索	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットでの検索方法の習得 (スポーツ・健康科学に関する事柄の調査) 	予習：検索方法を調査 復習：直近のスポーツ・健康科学の事柄について復習
14	論文検索の発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ・健康科学に関する調査結果の発表 	予習：検索した事柄をまとめる 復習：各自の調査結果をまとめる
15	総括	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期授業のまとめと休暇中の課題 	各自設定した課題などの省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA (CF 201)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>人類の文明発祥の地で興った「古代オリエント世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、古代インダス文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。</p>							①⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。				レポート・発表	15%	
情報収集、分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。				レポート・発表	30%	
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。				発表	35%	
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。				授業参加度	20%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、4本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の80%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授業の概要							
本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエント世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、古代インダス文明にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義も実践し、また、DVDなどの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
<p>教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	はじめに 最古の村落の出現（1）	演習全体の導入と説明 初期農耕牧畜社会の出現と拡散1	復習：今回の復習 予習：初期農耕牧畜社会について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	最古の村落の出現（2）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	最古の村落の出現（3）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：ウルク遺跡について調べる
5	古代メソポタミア文明 最古の都市（1）	都市の成立と都市国家間の争い1	復習：今回の復習 予習：シュメール文明について調べる
6	古代メソポタミア文明 最古の都市（2）	都市の成立と都市国家間の争い2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
7	古代メソポタミア文明 最古の都市（3）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
8	古代メソポタミア文明 最古の都市（4）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古王国時代について調べる
9	古代エジプト文明（1）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）1	復習：今回の復習 予習：ピラミッドについて調べる
10	古代エジプト文明（2）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
11	古代エジプト文明（3）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
12	古代エジプト文明（4）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古代インダス文明について調べる
13	古代インダス文明（1）	古代メソポタミアとの海上交易	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
14	古代インダス文明（2）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
15	古代インダス文明（3）	レポートの発表・添削・修正	復習：レポートの復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA (CF201)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連する問いを各自で設定し、それについての答えをみつけるための能力を培うことを目的とする。それは個人的な問題を他者と共有し、多角的な視点から共通理解となる答え（ものごとの本質）をみつけるための「哲学的思考」を展開する能力を培うことでもある。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）を展開することを重視する。							⑤ ⑥ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問いを設定できる。				・資料収集 ・問いの設定内容	30% 10%	
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通理解となる答えをみつけるための議論ができる。				・他者の主張を踏まえた議論の展開	60%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 議論を展開する上で、各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジюме（要約、自分なりの考察）を作成しているか、その内容が論理的に展開されているか（問題、テーマ、議論、答え）を評価する。 運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）が作成されているかを評価する。 個別テーマ研究や実技指導の後の議論では、問いを共有しそれについての意見を建設的に述べられているか、評価すべき点や改善すべき点は何かといった自身の意見を述べられているかを評価する。 フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> 体育やスポーツの諸科学の中でも、人文科学的な研究方法に基づいて、問題を共有するためのレジюме（発表資料）や現場で必要となる指導案を作成し、適宜運動実践も交えつつ、発表内容や実践の省察を議論形式で実施する。議論については、その方法自体を学んだ上で実際に意見を交わし合う。実践については、教員希望者の場合模擬授業を、スポーツ指導者の場合はスポーツ指導を展開し、それについて省察する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 							
教科書・参考書							
<p>教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房 『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房</p> <p>参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない 教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない 教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版 ＊該当年度の問題集</p> <p>指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、雑誌『現代スポーツ評論』創文企画 『はじめての哲学的思考』 苫野一徳 2017 筑摩書房</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること			
「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークをしたり、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングしたりして情報を蓄積すること。それが後に卒業研究論文の執筆、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。			
回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・本演習の概要説明 ・個別に学業等に関する面談を実施	予習：前学期の省察 復習：個別面談内容を基に 本学期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本 学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の 清書
3	哲学的対話という方法ⅠA	超ディベート（共通理解型志向型対話）の実践ⅠA （テーマ：体育やスポーツに限定しない広い範囲での 関心について）	予習：『はじめての哲学的思 考』を通読 復習：図書の「はじめに」と 「おわりに」を再読
4	レジュメの作成ⅠA	主張の抽出と思考の言語化ⅠA （レジュメの作成指導）	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定の ち再検索
5	指導案の作成ⅠA	授業/指導計画と種目の教材化ⅠA （実技指導の立案）	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実 技指導法を調べる
6	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （テーマ：現代におけるスポーツの位置づけ）	予習：レジュメの初作成 復習：発表時に受けた指摘 をもとにレジュメ添削
7	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （テーマ：スポーツのこれまでとこれから）	予習：テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
8	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （種目：ボールゲーム）	予習：種目のルール確認、担 当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
9	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：運動部活動に関する問題）	予習：テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
10	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：体育の授業の最前線）	予習：テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
11	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （種目：陸上競技関連）	予習：種目のルール確認、担 当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
12	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ・運動指導関連問題	予習：指定された範囲を学 習 復習：間違い箇所の復習
13	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：スポーツに関する仕事、都市型スポーツ、 オリンピックの肯定論と批判論）	予習：テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （テーマ：ニュースポーツの教材化）	予習：種目のルール確認、担 当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
15	まとめ	本 semester 授業のまとめと長期休暇の課題	・各自設定した研究テーマ や作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IA(CF201)			担当教員	東出 朋		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では日本語の「敬語コミュニケーション」に関する基本的な知識を学ぶ。日本人学生も留学生も受講可能である。敬語の運用について学習者はもちろん母語話者も難しさを覚える。敬語コミュニケーションにおいては、語彙・文法的な正確性以上に運用上の適切性が重要である。本演習では、敬語コミュニケーションについての原則を理解し、実例を観察し、運用力を高めることを目指す。							①②③⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	敬語コミュニケーションについての基本的な知識を知る。				発表 レポート	10% 15%	
情報収集、分析力	コーパスや実際の談話から敬語コミュニケーションの実例を収集し、分析することができる。				発表	35%	
コミュニケーション力	調べてきたことを簡潔にまとめて発表することができる。ディスカッションに参加し、自分の意見を的確に述べるができる。				発表 ディスカッション	20% 20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
敬語コミュニケーションに関する専門知識について、普段の発表やレポートを 30%で評価する。発表にあたって自分で情報収集・分析することについて 30%で、自分の意見を簡潔にまとめて発表・ディスカッションすることについて 40%で評価する。練習問題や発表・レポートについては、授業内でフィードバックを行う。							
授業の概要							
授業内では、輪読し練習問題を解き、ディスカッションすることで知識を深める。授業外では、問題を解き、自分で表現を集めたり調べたりする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学習時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：蒲谷宏（2014）『敬語マスター—まずはこれだけ 三つの基本』大修館書店 参考書：特になし 指定図書：蒲谷宏編著／金東奎・吉川香緒・高木美嘉・宇都宮陽子著（2010）『敬語コミュニケーション』朝倉書店							
授業外における学修及び学生に期待すること							
普段から敬語コミュニケーションに関して注意を払い、他者の使用を観察すること。 日本人学生は「日本語検定」、留学生は「日本語能力試験（JLPT）」を各自受験すること。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本演習の進め方, 評価方法の説明	事前にシラバスをよく読み、学習項目を確認する。
2	前学期の省察	前学期の省察と本学期の目標設定、個人面談	予習) ルーブリック評価と読書記録の入力 復習) ルーブリック評価
3	第1章 敬語コミュニケーションとは	1.1 敬語コミュニケーションを考えるための枠組み	予習) 1.1 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
4	第1章 敬語コミュニケーションとは	1.2 敬語コミュニケーションの前提となる考え方	予習) 1.2 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
5	第2章 敬語の体系	2.0 敬語の体系	予習) 2.0 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
6	第I部基礎編 第1章 高くする敬語 1-1 高くする敬語(1)	1-1 高くする敬語(1) 尊敬語について	予習) 1-1 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
7	第I部基礎編 第1章 高くする敬語 1-1 高くする敬語(1)	1-1 高くする敬語(1) 尊敬語について	予習) 1-1 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
8	第I部基礎編 第1章 高くする敬語 1-2 高くする敬語(2)	1-2 高くする敬語(2) 謙譲語 I について	予習) 1-2 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
9	第I部基礎編 第1章 高くする敬語 1-2 高くする敬語(2)	1-2 高くする敬語(2) 謙譲語 I について	予習) 1-2 語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
10	復習	尊敬語と謙譲語の実践練習	予習) 実例検索 復習) 練習問題
11	第I部基礎編 第2章 改まりを示す敬語	謙譲語 II (丁重語)	予習) 2章語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
12	第I部基礎編 第2章 改まりを示す敬語	丁寧語・美化語	予習) 2章語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
13	第I部基礎編 第2章 改まりを示す敬語	丁寧語・美化語	予習) 2章語彙・漢字チェック 復習) 練習問題
14	復習	謙譲語 II (丁重語)・丁寧語・美化語の実践練習	予習) 実例検索 復習) 練習問題
15	総合復習	尊敬語・謙譲語 I・謙譲語 II・丁寧語・美化語の総合的な復習	予習) 実例検索

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	末永貴久		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
スポーツトレーニングに関するテキストの輪読を通して、トレーニング、体のしくみ、さらにスポーツ科学全般に関する基礎的な知識を理解すると共に、実技により実践の基礎を経験し、習得することを目的とする。また、これらの基礎的知識や実践を、自分が行っている種目や、関心がある種目に応用して考えることができるようになることを目的とする。							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 体のしくみを理解し、トレーニングに関する基礎的知識を理解することができる。 各種トレーニングの実践方法を修得する。 				<ul style="list-style-type: none"> プレゼン用レジュメ 実技試験 		10% 10%
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 自分が行っている種目や、興味がある種目を、トレーニングやスポーツ科学理論の観点から考えることができる。 				<ul style="list-style-type: none"> プレゼン後のディスカッション 		30%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションにおいて自分の意見を述べるができる。 				<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション プレゼン後のディスカッション 		50%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション（80%）については、担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、その周辺領域に関する知識も把握した上でのプレゼンテーションとする。プレゼン用レジュメ（10%）については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする（授業内でフィードバック）。実技試験（10%）については、正しい方法を理論的に理解した上で実践できているかを評価基準とする。</p>							
授業の概要							
<p>スポーツトレーニングに関するテキストを輪読していく（①担当箇所・担当者の決定、②担当箇所を精読、③要約、④レジュメ作成、⑤報告、⑥ディスカッション）。なお、②～④の行程については、担当者が事前（ゼミ時間外）に準備するものとする。また、実技は本学にて実習形式で行っていく。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：「スポーツトレーニングの基本と新理論」2017 佐久間和彦（監）株式会社マイナビ出版 指定図書：「スポーツトレーニングの基本と新理論」2017 佐久間和彦（監）株式会社マイナビ出版</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>体のしくみやトレーニングに興味を持ち積極的に参加してほしい。また、自身のスポーツ時や日常においても、ゼミで習得した基礎知識をリンクさせ、疑問をもって自身で調べ、理解する等の取り組みを行ってほしい。</p> <p>実技については、実践・体験することにより習得できるものであるから、スポーツに関わる人間として積極的な態度を期待する。</p> <p>さらに、大学生としての受講態度やマナーをもって教員やゼミ生と接してほしい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション、前学期の省察と本学期の目標設定	自己紹介、前学期の省察と本学期の目標設定、ゼミの進め方についての説明、輪読①担当決定	予習：前学期の省察と本学期の目標を考えておく。トレーニングについての本を1冊読んでおく。 復習：省察と目標の確認。ゼミ内容の全般的な確認。
2	輪読①	力学的原理・関節の構造について、輪読②担当決定	予習：身体の力学的な原理や構造を調べておく。 復習：特に身体の構造を確認しておく。
3	実技①	ストレッチの実践	予習：ストレッチの方法を調べておく。 復習：自宅で実施した内容を再度行う。
4	輪読②	骨・骨格筋の構造について、輪読③担当決定	予習：骨や骨格筋の構造について調べておく。 復習：主立った筋肉や骨の名前を覚える。
5	実技②	自体重による筋力トレーニングの実践	予習：本や雑誌で、自体重トレーニングを把握しておく。 復習：1日に1回はトレーニングして身につける。
6	輪読③	筋収縮について、輪読④担当決定	予習：筋収縮について概要を調べておく。 復習：収縮のメカニズムをしっかりと覚える。
7	実技③	体幹トレーニングの実践	予習：体幹トレーニングの種類を調べておく。 復習：自宅で実施したトレーニング内容を再度行う。
8	輪読④	筋の組成・筋繊維タイプについて、輪読⑤担当決定	予習：筋肉の組成や筋繊維タイプを調べておく。 復習：筋繊維の名称を数通り覚える。
9	実技④	ウォーキング(インターバル速歩)の実践	予習：インターバル速歩について調べておく。 復習：日常の歩きの中で実践してみる。
10	輪読⑤	骨格筋・運動神経系について、輪読⑥担当決定	予習：人間の神経の構造について調べておく。 復習：神経の種類の基礎的な部分を覚える。
11	実技⑤	Long Slow Distance の実践	予習：有酸素トレーニングの種類を把握しておく。 復習：週に1回はトレーニングして、体力向上にも努める。
12	輪読⑥	ガス交換について、輪読⑦担当決定	予習：心肺機能について概要を調べておく。 復習：ガス交換について、説明できるようにメカニズムをしっかりと覚える。
13	実技⑥	インターバルトレーニングの実践	予習：有酸素トレーニングの種類を調べておく。 復習：自身の種目の中に取り入れて再度実践してその効果を確認する。
14	輪読⑦	エネルギー産生について	予習：エネルギー供給機構を調べ、概要を知っておく。 復習：3つのエネルギー供給機構について正確に説明できるよう繰り返し学習する。
15	実技⑦	HIIT(タバタプロトコル)の実践	予習：HIITについて動画を見て概要を確認しておく。 復習：自分の種目に応じたプロトコルの使用法を考え、実践する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	川上 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本演習では、青年心理学（青年期：国や論者によって諸説あるが、一般的に中・高・大の年齢層）を大きな柱とし授業を展開する。学生の皆さん自身が位置づく青年期の心理学的側面について理解を深めることで、自己理解・他者理解を促していくことを目的としている。具体的には、青年期で起こるまたは起こり得る現象を心理学的視点から分析考察、互いに議論することを通じて、人を理解することの奥深さ、自分を理解することの重要性について体感する場としたい。							①④⑤ ⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・青年期について基礎的理論を理解し、自分に置き換えるなどして説明することができる。				発表・議論 授業の振り返り	10%	
情報収集、分析力	・自分のもつ問題意識をもとに、新聞やニュース、文献、書籍などから事例や情報、理論を収集することができる。 ・多面的に物事を整理し、自分自身がどう考え捉えているのかを意識して、プレゼン資料やレポートを作成することができる。				レポート・プレゼン資料	35%	
コミュニケーション力	・他者の意見（ものの見方）に関心・理解を示しつつ、自分自身がどう考え捉えているのかを伝えることができる。				発表・議論 授業の振り返り	40% 5%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	・自身の課題への取組と他者の意見を通して、色々なものの見方、感じ方があることを理解することができる。				発表・議論 授業の振り返り	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、レポート・プレゼン資料の様式や内容を 35%、発表・議論、授業の振り返り（授業後記述）を 65% の比率で評価する。レポート・プレゼン資料は、文献等の引用ルールの順守等の基本的なアカデミックスキルと根拠を踏まえた論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。レポート・プレゼン資料の作成に関しては、演習の初回で説明し、作成に関する修正点や質問等は随時対応する。発表・議論、授業の振り返りについては、専門的な視点への意識の有無やテーマに対する考えの深まりについて、発言の内容や議論への参加などを基準に評価する。なお、前回の授業の振り返りについては次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。							
授業の概要							
この演習では、青年心理学を大きな柱とし授業を展開する。授業の前半で、青年期の心理的な側面に関する基礎的な知識（理論）について教員から説明を行う。その視点を踏まえつつ、自身の問題意識をもとにプレゼン資料を作成し、互いの議論で現象理解の深化、自他への理解を促していく。具体的な授業の流れとしては、各自、青年期（中学、高校、大学）におけるアイデンティティの発達や人間関係、将来の進路などに関する課題についての事例を提示し、その背景や対処法などについて客観的根拠に基づく自身の見解を発表する。この演習の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。 参考書：授業時に紹介するので、詳細を知りたい場合や知識を深めたい場合は参照のこと。 指定図書：エピソードでつかむ青年心理学（大野久編著、ミネルヴァ書房）、 思春期・青年期のこころ一かかわりの中での発達（平石賢二編著、北樹出版） ※留学生には別途、授業中に指示する							

授業外における学修及び学生に期待すること

1. 自分の関心の傾向を知ること。（自分の軸となり得ますが、色々な関心の幅を広げていくことを意識すること）
2. 普段から青年期に関するニュースや資料へのアンテナをはり、情報を収集すること。
3. 他者のテーマについても、理解を深めるよう努めること。
4. 議論で明らかになった不明点や新たな発見を整理し、復習し、探究の視点として学びにつなげていくこと。
5. 留学生の受講も歓迎する。青年期における母国と日本の比較など（言語に不安があっても気にせず）積極的な意見の交流を目指すこと。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	メンバー自己紹介 授業の概要およびゼミの運営方法を確認する。	予習：事前にシラバス及び演習概略を確認する
2	前学期の省察と本学期の目標設定	個別面談による目標設定をおこなう。	予習：自身のこれまでの取組や興味・関心について整理してくる。
3	青年期に関する基本的知識の習得①	青年期のキャリア発達段階について学ぶ （スーパーのキャリア発達の諸段階と発達課題について）※後半は教員が提示するテーマについての議論	復習：スーパーのキャリア発達
4	青年期に関する基本的知識の習得②	青年期の発達主題について学ぶ。（エリクソンの漸成発達理論について）※後半は教員が提示するテーマについての議論	復習：エリクソンの漸成発達理論について復習
5	青年期に関する基本的知識の習得③	①②を踏まえて、青年期を生きる自分自身をテーマに自分について他者に紹介するスライドを作成する。	予習：自分の強みや弱みなども含め、自分について整理してくる
6	事例で学ぶ①青年期に起こり得る危機的課題について	不登校、人間関係（家族、友達、SNS、いじめなど）に関する問題、進路問題などについて、教員が提示するテーマについて、探究事例の紹介	復習：自分の問題意識に基づくテーマについての検討と探究
7	事例で学ぶ②青年期に起こり得る危機的課題について	不登校、人間関係（家族、友達、SNS、いじめなど）に関する問題、進路問題などについて、教員が提示するテーマについて、探究事例の紹介	復習：自分の問題意識に基づくテーマについての検討と探究
8	レポート・発表資料の作成方法について	レポート・発表資料の作成について	予習：発表資料の作成 復習：資料作成のポイント
9	テーマ研究①	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
10	テーマ研究②	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
11	テーマ研究③	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
12	テーマ研究④	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
13	テーマ研究⑤	担当者による発表と議論，教員からのフィードバック	予習：発表資料の作成 復習：議論についての整理
14	レポートの作成	テーマに関するレポート作成	予習：学びの想起 復習：レポートの仕上げ
15	成果の発表	テーマに関する発表	予習：発表練習 復習：レポート提出

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	井畑敦子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
文化人類学は、「人間、国際、社会、自然」という本学がキーワードとする学びを体系的に網羅する学問であり、専門演習 I～IIIを貫くディシプリンである。中でも「人間理解」は、人類学がその名の通り探求の中心に据えるものであり、ヒトを人たらしめる文化を深く掘り下げていく。その糸口として、自らが属する文化から一歩踏み出し、直接見聞きし関わり触れながら相互理解を深め、その中で培った共通言語を介し異文化の深遠な世界へアクセスを試みる。同時に、地球上のカラフルで多様な差異を超えた共通性にも焦点を当て、人間内だけではなく種としての特性と豊かさを、自然との関係性から見る人新世の視座にも着目する。人類という存在を再考し、その複雑さと魅力の一端をとともに感じ取ってもらいたい。							②④⑥⑦ ⑧⑩⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	一般的な定義を超えた「文化」「異文化」の深い理解を持ち、文化人類学的知見をもって体系的に説明ができる。				・レポート ・意見の陳述	10%	
情報収集、分析力	関心領域や課題についての的確に調べることができ、参考文献として示せる。				・レポート ・プレゼンテーション	30%	
コミュニケーション力	他者理解の重要性と無知の知を理解し、それを自己の成長や認知能力、課題解決や理解に応用できる。実践的にフィールドワークを通して異文化理解が深められ、オフクラスでも活用することができる。				・グループワーク ・討議参画 ・意見の陳述	40%	
協働・課題解決力	プレゼン発表に向けて課題を的確に把握し、仲間と協力して解決に向けた方策を独自に立案し、調べ、着実に実行できる。				・グループワーク ・課題発表 ・意見の陳述	10%	
多様性理解力	文化人類学の意義を理解し、大学での学びの構築の基盤とできる。自文化とともに異文化を深く理解し、課題設定やグループワークにも他者理解に基づいて行動するなど、応用ができる。				・グループワーク ・討議参画 ・課題発表	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>グループワークを基盤として授業を進行します。初めての人には初日に分かりやすく説明します。すべての提出物や、授業で使用する材料はこの ICT をプラットフォームとし、添削などのフィードバックを機能的にします。15 週の中で各学生がどの様に考え、どの様にそれを表現したかを評価軸におきますので、筆記試験は行いません。プレゼンテーションも評価対象になりますが、本番の発表だけでなく、それに至る過程、取り組み姿勢、事前準備、特にフィールドワークやグループワークなど実践を通じた学びをより重視します。故に、目に見える授業姿勢だけではなく、オフクラスの取り組みがレポートとして反映される提出物の比重が高くなります。中でも、リアクションペーパーによって授業を作っていくので特に重きを置きます。基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点からも提出物を評価し、初めはできないとしても回を追うごとに進化・深化していく成長や成果の伸びを重視します。参加型の演習なので無断欠席は仲間の学習に支障となるので減点対象となり、チームビルディングできるコミュニケーション能力向上に重きを置きます。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は PBL であり、卒論に向けて取り組もうとする課題をプロジェクトとして、文化人類学的理解と手法でアプローチします。構成としては反転授業となります。つまり、授業前半で得たインプットを後半のグループワークでアウトプットし、オフクラスでは授業全体で得たインプットを、次の授業に生かすために復習し、グループワークやディスカッションをより豊かなものにする予習にも活用します。また、プロジェクトの発表として中間と最終日にフィールドワークや授業のインプットを反映したプレゼンテーションをグループで行います。個々の内容に関連したビジュアルエイドや動画などを積極的に取り入れていれながら、楽しく共に学んでいきたいと思えます。また、ESP (English for Specific Purpose) でもあるので観光や個々の関心領域を通して英語が学べるよう、共通言語を英語とします。アクティブに参加できるようにフレーズや単語など表現を前もって予習して臨んでください。しかし、ゼミ生の英語力の段階を鑑み、逐次調整していきます。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とします。</p>							

教科書・参考書

教科書：『初めての人類学』奥野克己 講談社現代新書 2023

参考書：『人類学とは何か』ティム インゴルド 亜紀書房 2020

指定図書：『パパラギ』エーリッヒ ショイルマン SB文庫 2009

授業外における学修及び学生に期待すること

人類学は「人々とともに学ぶ学問」です。他者を真剣に受け取り、属性よりも関係性から流動的に捉え、細分化よりも統合する知恵の学として実践知を確立してきました。生のプロセスに対して開かれ、全ての人にとって居場所がある世界を築く方法である「ケアの倫理」を、異なるからこそ与え合うことができ、違うからこそ尊重し合える「関係しあう存在」として人間を捉えることによってより世界の本質に近づき、物事への理解につながればと思います。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション 全体の導入	メンバー自己紹介 演習概略および方向性やゼミの運営方法を確認する	事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる
2	個人面談・到達目標設定	個人面談により、到達目標の進捗状況や各自の問題意識の持ち方等を確認する。本学期の目標設定を行う	これまでの取り組みや興味・関心をまとめ、課題や目的意識を検討しておく
3	文化人類学とは何か（1）	教科書、指定図書、参考書を足掛かりに、ベースとなる学問的理解を深める	教科書を読みこみ、文化人類学のエッセンスをくみ取る
4	文化人類学とは何か（2）	存在論的展開など理論的展開の変遷について学ぶ	参考資料から自分なりの文化人類学を理解する
5	文化とは何か（1）	ホーリスティックな視座と文化人類学の文化概念について習得する	文化について定義ができるようにしておく
6	文化とは何か（2）	社会構築主義や構造主義など、社会科学のアプローチを学ぶ	文化を再定義できるようにしておく
7	異文化とは何か（1）	文化相対主義を非日常と自明性の観点から学ぶ	異文化について定義ができるようにしておく
8	異文化とは何か（2）	オリエンタリズム、ポストコロニアリズムなど人類学の基本概念をクリティカルシンキングから学ぶ	異文化について再定義ができるようにしておく
9	中間発表	授業でのインプットによって変化した文化概念を具体例とともに共有する	文化人類学について定義ができるようにしておく
10	無知の知について	課題探求とその基本的姿勢について学ぶ。コミュニケーションの重要性を再認識する	無知の知について調べ自分なりの理解をしておく
11	方法論について	フィールドワークの意義と技法について学ぶ	観察と質問について調べておく
12	課題設定	教科書の理解をベースに、自らの関心領域を発掘する	教科書を読みこみ、文化人類学的課題を探す
13	課題設定	教科書の理解をベースに、自らの関心領域を発掘する	教科書を読みこみ、文化人類学的課題を探す
14	専門演習 IA の全体の振り返り	各自が半期の研究を振り返り、まとめの発表を行う。	半期のまとめ発表の準備をする
15	まとめ	1年生の演習で学んだことを省察し、次の学年での学びや自分の将来にどの様につながるのかを考える	専門演習 I 全体で学んだことを再確認する

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	長津恒輝		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習 I A および I B では、スポーツ健康科学分野のトピックを検索および情報共有を行い、ディスカッションを通して基礎的な知識を身に付けることをねらいとする。調査内容の発表によるプレゼンテーション能力およびディスカッション能力の習得を図る。I A では、わかりやすいスライドを作成することを目標とする。							①②③④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> ・運動時の生理応答を理解し、基礎的な知識を身に付けることができる。 ・自身の身体を用いて検証することができる。 				・発表スライド	30%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・指定されたテーマの範囲内で興味がある内容について著書をはじめとしたその他関連記事を検索することができる。 ・調査した内容を分析することができる。 				・情報収集	20%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・調査した内容について、自身が伝えたいことをプレゼン資料を用いながらわかりやすく発表することができる。 ・他者の発表に対し、積極的に質問することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容 ・質疑内容 	30%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・各取り組みや活動において自己理解および他者理解を深め、組織の中の一員として課題を解決することができる。 				・受講態度	10%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康科学分野における性差を理解できる。 				・課題レポート	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
担当回の調査は該当箇所をまとめるだけでなく関連研究の内容まで情報を収集できているかを評価する(20%)。また、図表を用いわかりやすいスライド(資料)を作成しているか(30%)および伝えたいことを簡潔に言語化できているか(30%)を評価する。さらに、受講態度および課題レポートにより主体性(10%)および多様性に対する理解力(10%)を評価する。課題の提出やフィードバックはポートフォリオを用いて行う。							
授業の概要							
本演習はスポーツ健康科学分野に関する著書(記事)を輪読していく。その際、担当者が事前に調査した内容を発表し、その後全員でディスカッションする流れを基本とする。また、輪読したトピックに関連する内容を実際に自身の身体で検証する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
<p>教科書：特になし</p> <p>参考書：監訳：内藤久士 他、「パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用」(メディカルサイエンスインターナショナル出版)</p> <p>指定図書：内藤久士 他、「パワーズ運動生理学 体力と競技力向上のための理論と応用」(メディカルサイエンスインターナショナル出版)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
スポーツ健康分野における研究の一端に触れることで、科学的なものの見方・捉え方を身に付ける。予習が必要な回では、指定された内容について事前調査を行う。また、実際に扱った内容を検証することにより、卒業研究に繋がるような運動生理学的な測定方法や考え方を習得することを望む。さらに、担当教員およびゼミメンバーとの共同での活動やディスカッションを通して、自己理解および他者理解を深め、社会性を育むことを期待する。その1つとして忘れ物、遅刻、欠席等は担当教員に必ず連絡する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介 本学期の目標設定 本演習の進め方についての説明 	予習：シラバスを熟読する 復習：ゼミ内容の全般的な確認
2	組織（ゼミ）作り	<ul style="list-style-type: none"> プロセスエデュケーション 	予習：自身の持ち味を考える 復習：ゼミ活動での役割を考える
3	輪読会に向けて①	<ul style="list-style-type: none"> 担当教員による輪読発表のデモンストレーション 	予習：指定された記事に目を通す 復習：輪読した内容を理解する
4	輪読会に向けて②	<ul style="list-style-type: none"> 前回の発表内容について実践（体験）する 	予習：次回に向けて仮説を立てる 復習：輪読した内容を理解する
5	輪読会に向けて③	<ul style="list-style-type: none"> 要約の仕方について 発表スライドの作成方法について 	予習：Office系ソフトの使用環境を整える 復習：プロトコルの図を作成する
6	輪読会に向けて④	<ul style="list-style-type: none"> 担当回（テーマ）の決定 	予習：担当したいテーマを決めておく 復習：資料作りに取り掛かる
7	輪読会①	<ul style="list-style-type: none"> 担当者による発表と議論 テーマ：運動後のリカバリー方法 次回実践（体験）する内容の思索 	予習：指定された記事を読み込む 復習：リカバリー方法の違いが及ぼす影響を理解する
8	輪読内容の実践①	<ul style="list-style-type: none"> 前回の発表内容について実践（体験）する 	予習：次回に向けて仮説を立てる 復習：仮説を検証する
9	輪読会②	<ul style="list-style-type: none"> 担当者による発表と議論 テーマ：体力と性差 次回実践（体験）する内容の思索 	予習：指定された記事に目を通す 復習：体力や運動パフォーマンスに及ぼす性差の影響を理解する
10	輪読内容の実践②	<ul style="list-style-type: none"> 前回の発表内容について実践（体験）する 	予習：次回に向けて仮説を立てる 復習：仮説を検証する
11	輪読会③	<ul style="list-style-type: none"> 担当者による発表と議論 テーマ：活動量の測定 次回実践（体験）する内容の思索 	予習：指定された記事に目を通す 復習：活動量およびその測定方法について理解する
12	輪読内容の実践③	<ul style="list-style-type: none"> 前回の発表内容について実践（体験）する 	予習：次回に向けて仮説を立てる 復習：仮説を検証する
13	輪読会④	<ul style="list-style-type: none"> 担当者による発表と議論 テーマ：運動環境 次回実践（体験）する内容の思索 	予習：指定された記事に目を通す 復習：環境が生理応答に及ぼす影響を理解する
14	輪読内容の実践④	<ul style="list-style-type: none"> 前回の発表内容について実践（体験）する 	予習：次回に向けて仮説を立てる 復習：仮説を検証する
15	総括	<ul style="list-style-type: none"> 本演習の振り返り 夏季休暇に向けて 	予習：振り返りを個人で行い発表できるようにする 復習：課題に取り組む

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A(CF201)			担当教員	小泉 優莉菜		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
博物館等の見学を各自が行い、博物館を資料・展示・保存・研究・展覧会など様々な角度から概観し、博物館を幅広く学ぶとともに、卒業研究のテーマを考える力を身に付けることができる。地域文化資源の野外調査を行い、その結果を発表することができる。							⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。				授業・調査への参加度	10%	
情報収集、分析力	博物館の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。書籍や論文を読み分析力を養うことができる。				課題研究(卒業研究)	30%	
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。				調査における態度	50%	
協働・課題解決力	博物館の調査方法を身に付け、プレゼンテーションができる。勉強会に積極的に参加して、自分の考えを述べるができる。				プレゼンテーション	10%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
合同調査などにおけるコミュニケーション力が50%、課題研究(卒業研究)による情報収集・分析力が30%、プレゼンテーションおよびその他が各10%で評価する。ポートフォリオで課題のフィードバックを行う。							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 ・書籍・文献調査の課題提示は授業時に行う。 ・研究発表会を行う。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。 参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。 また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。 ※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。 ※見学・調査費用は実費とする。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：卒業研究章立て
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	卒業研究の制作の説明	卒業研究の書き方について理解する。	予習：卒業研究の準備 復習：今回の復習
4	卒業研究の制作	卒業研究の章立てをする。	予習：章立ての準備 復習：今回の復習
5	卒業研究の制作	卒業研究の章立てについて指導を受ける。	予習：章立ての準備 復習：今回の復習
6	卒業研究の制作	卒業研究の文献渉猟を行う。	予習：文献渉猟の準備 復習：今回の復習
7	卒業研究の制作	卒業研究の文献渉猟を行う。	予習：文献渉猟の準備 復習：今回の復習
8	卒業研究の制作	卒業研究の野外調査の方法を学ぶ。	予習：文献渉猟の準備 復習：今回の復習
9	卒業研究の制作	卒業研究の先行研究の書き方について理解する。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
10	卒業研究の制作	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
11	卒業研究の制作	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
12	卒業研究の制作成果の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	卒業研究の制作成果の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	卒業研究の制作成果の提出と添削	添削された卒業研究を修正する。	予習：課題の修正 復習：課題の修正
15	課題研究(卒業研究)の受理	前期のまとめとして、修正した研究成果を提出する。	予習：課題提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	張 美慶		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
SIT 観光であるダークツーリズムを3つの観点(教育的、倫理的、地域経済的)と意義について整理でき、国際観光力学習に取り組む姿勢を身につける。							⑤⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	SIT(Special interest tourism)について説明できる。				テスト	20 %	
情報収集、分析力	ワード、エクセル、パワーポイントなど、基本的な情報処理ができる技術が身に付きます。				課題、発表資料	30 %	
コミュニケーション力	プレゼンテーションの能力を高めることができる。				発表力	40 %	
協働・課題解決力	課題解決力を高める。				課題レポート	5 %	
多様性理解力	幅広い分野に触れることによって観光の多様性をより理解できる。				ディスカッション	5 %	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
SIT 観光の専門力を確認するためにテスト(評価比率 30%)を行う。 コミュニケーション力を高めるため、プレゼンテーションの発表能力、態度など(評価比率 30%)を評価する。 課題レポートを通じて課題解決力(評価比率 20%)を評価する。ディスカッションを活用して、幅広い観光分野の理解力(評価比率 20%)について評価する。また、課題のフィードバックは授業中に適宜行う。							
授業の概要							
本授業は戦争、災難など悲劇的な歴史の現場を訪問して教訓を得るダークツーリズムについて学ぶことである。国内外の事例を通じてダークツーリズムの概念、特殊目的観光 SIT(Special interest tourism)の知識を習得し、課題について議論し、発表する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。 参考書：大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治編『観光学ガイドブック』(ナカニシヤ出版) 指定図書：参考書と同じ							
授業外における学修及び学生に期待すること							
観光は単一現象ではなく複雑な構造で形成されているためグローバルな視点を持つこと、視野を広げてほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス	ダークツーリズムの概念、類型について学ぶ。	シラバスをよく読んで準備しておくこと
2	SIT 観光	SIT 観光の概念と観光客に関する特性について学ぶ。	SIT 観光についてインターネット、記事などを事前に調べておくこと
3	SIT 観光の国内事例	SIT 観光の国内事例について学ぶ。	SIT 観光についてインターネット、記事などを事前に調べておくこと
4	SIT 観光の国外事例	SIT 観光の国外事例について学ぶ。	SIT 観光についてインターネット、記事などを事前に調べておくこと
5	テスト	今まで学んだ SIT 観光についてテストを行う。	復習した内容についてテスト。
6	日本ダークツーリズム事例	日本におけるダークツーリズムの事例について学ぶ。 (長崎平和公園)	長崎事例を通じてダークツーリズムの教育的観点について復習。
7	日本ダークツーリズム事例	日本におけるダークツーリズムの事例について学ぶ。 (阪神・淡路大震災)	阪神・淡路大震災事例を通じてダークツーリズムの地域経済的観点について復習。
8	アメリカのダークツーリズムの事例	アメリカのダークツーリズムの事例について学ぶ。 (9.11 テロ)	アメリカにおけるダークツーリズムの事例について倫理的観点から復習する。
9	韓国のダークツーリズムの事例	韓国のダークツーリズムの事例について学ぶ。 DMZ (Demilitarized Zone)	DMZ 観光についてインターネット、記事などを事前に調べておくこと
10	ダークツーリズムについての議論①	ダークツーリズムについてディスカッションを行う。	議論した内容を検討し、復習する。
11	ダークツーリズムについての議論②	ダークツーリズムについてディスカッションを行う。	議論した内容を検討し、復習する。
12	ダークツーリズムについての課題レポートを紹介	ダークツーリズムについての課題レポート内容について議論、今後の課題についての考察。	議論した内容を検討し、復習する。
13	ダークツーリズムを 3 つの観点	ダークツーリズムについて、教育的、倫理的、地域経済活性の観点からまとめる。	プレゼンテーションの準備をする。
14	プレゼンテーション①	ダークツーリズムについて議論した課題を踏まえ、教育的、倫理的、地域経済活性の観点から発表する。	用意したプレゼンテーションを紹介し、まとめる。
15	プレゼンテーション②	ダークツーリズムについて議論した課題を踏まえ、教育的、倫理的、地域経済活性の観点から発表する。	用意したプレゼンテーションを紹介し、まとめる。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I A (CF201)			担当教員	余 乾生		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
国立社会保障・人口問題研究所の『社会保障研究』という雑誌を範囲とし、その中からグループワークで感心課題を挙げて、一つの論文を選択する。そして、グループで役割分担をし、その論文のまとめ(課題解決)を行う。分担された役割のみは予習とする。授業中は、担当グループが報告し、他のグループとディベートを行う。これによって、日本をベースに、世界に視野を広げつつ、社会保障の基礎知識を身に付けつつ、社会保障政策をめぐる課題や新たな動向を把握し、論理的に自分の意見を述べられる。							①④⑤⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	社会保障をめぐる基礎知識を理解することができる。				演習への参加度	10%	
情報収集、分析力	論文まとめのときに、補足の情報(他の論文や資料)を収集し、論文とあわせて、筆者の正確な意図を分析することができる。				最終レポートとプレゼンテーション	30%	
コミュニケーション力	プレゼン資料を作成し、わかりやすく発表することができる。そして、他の方の意見を正確に把握し、論理的に回答やディベートができる。				プレゼンテーションとディベート	40%	
協働・課題解決力	グループで事前の打ち合わせやディスカッションにより、課題解決に繋ぐことができる。				演習への参加度	10%	
多様性理解力	授業中のディベートを通じて、同じものに対して、異なる意見や理解が可能ということを認識できる。				演習への参加度	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 最終レポート、プレゼンテーションとディベート：補足資料の適切さ、論文まとめの正確さ、プレゼンテーションやディベートのわかりやすさと論理性について評価する。 演習への参加度：グループワークやディベートへの参加度合を評価する。 論文まとめの選択からレポートやプレゼンテーションの執筆の各段階において、適宜個人指導を通じて行う。 フィードバックは授業中に適宜行う。 							
授業の概要							
<p>本演習では、前期には、社会保障についての感心課題を探ることから始め、グループワークを通じて、その課題対応の論文を自分で選択する。そして、正確なまとめ方をプレゼンテーションやディベートを通じて学び、論理的な思考を身に着ける。後期には、前期の論文まとめの知識や経験をベースに、感心課題について、さらに自分の知りたい点を整理する。そして、その点について、簡単な研究計画の作成に挑戦する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。 参考書：適宜紹介する。 指定図書：国立社会保障・人口問題研究所『社会保障研究』 https://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/sakuin/kikanshi/sakuin1.htm</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
一つの論文を正確に読むことは、決して簡単ではない。授業外で勉強するとき、わからない記述があれば、地道に調べる習慣を身に着けることが大事。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	教員ならびに受講生の自己紹介を行い、専門演習の進め方や読む論文の範囲をについて説明する。ゼミ担当教員と相談しながら、グループ分けを確定する。	予習：シラバスを読む 復習：読む論文の範囲
2	社会保障全体像の紹介・感心課題のグループディスカッション (1)	世界の社会保障の変遷を紹介し、感心課題の可能性を探る。	予習：授業レジュメを読む 復習：社会保障の知識と感心課題
3	社会保障全体像の紹介・感心課題のグループディスカッション (2)	日本の社会保障の変遷を紹介し、感心課題の可能性を探る。	予習：授業レジュメを読む 復習：社会保障の知識と感心課題
4	社会保障全体像の紹介・感心課題のグループディスカッション (3)	福祉レジームを紹介し、感心課題の可能性を探る。	予習：授業レジュメを読む 復習：社会保障の知識と感心課題
5	読む論文の整理・論文の選択 (1)	グループディスカッションを通じて、読む論文の種類やトピックスを整理し、まとめた論文を選択する。そして、報告グループの順番を決定する。	予習：読む論文の範囲 復習：まとめた論文
6	読む論文の整理・論文の選択 (2)	グループごとに、読みたい論文のタイトルを発表し、その理由を説明する。グループ内の役割分担を決める。第7回報告のグループは作戦会議。	予習：まとめた論文の理由作成 復習：まとめた論文
7	プレゼンテーション・ディベート (1-1)	最初のグループのプレゼンテーションと質疑応答。そして、次回のディベートのポイントの整理。	予習：次回の報告の論文 復習：ディベートポイント
8	プレゼンテーション・ディベート (1-2)	前回のディベートポイントをベースに、ディベートを行う。プレゼンテーション改善のポイントのまとめ。	予習：ディベートポイント 復習：ディベートの整理
9	プレゼンテーション・ディベート (2-1)	第2グループのプレゼンテーションと質疑応答。そして、次回のディベートのポイントの整理。	予習：次回の報告の論文 復習：ディベートポイント
10	プレゼンテーション・ディベート (2-2)	前回のディベートポイントをベースに、ディベートを行う。プレゼンテーション改善のポイントのまとめ。	予習：ディベートポイント 復習：ディベートの整理
11	プレゼンテーション・ディベート (3-1)	第3グループのプレゼンテーションと質疑応答。そして、次回のディベートのポイントの整理。	予習：次回の報告の論文 復習：ディベートポイント
12	プレゼンテーション・ディベート (3-2)	前回のディベートポイントをベースに、ディベートを行う。プレゼンテーション改善のポイントのまとめ。	予習：ディベートポイント 復習：ディベートの整理
13	プレゼンテーション・ディベート (4-1)	第4グループのプレゼンテーションと質疑応答。そして、次回のディベートのポイントの整理。	予習：次回の報告の論文 復習：ディベートポイント
14	プレゼンテーション・ディベート (4-2)	前回のディベートポイントをベースに、ディベートを行う。プレゼンテーション改善のポイントのまとめ。	予習：ディベートポイント 復習：ディベートの整理
15	まとめと展望	まとめと最終レポートの説明	本学期の成果の確認